

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第111集

上の城遺跡群

上ノ城遺跡

長野県佐久市大字岩村田上ノ城遺跡発掘調査報告書

2003.3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第111集

上の城遺跡群

上ノ城遺跡

長野県佐久市大字岩村田上ノ城遺跡発掘調査報告書

2003.3

佐 久 市
佐久市教育委員会



上ノ城遺跡の遺構を空から見る（共同測量社撮影 2002.5）



上ノ城遺跡の地形（こうそく撮影 1994.5 まだ双信電気の建物がある）



上ノ城遺跡から浅間山を望む（共同測量社撮影 2002.5）

目次

巻頭カラー図版

例言

凡例

目次

I	発掘調査の経緯	1
1	調査に至る経過	1
2	調査日誌	4
3	調査の概要	5
II	遺跡の環境	7
1	地理的環境	7
2	歴史的環境	8
III	縄文時代の遺構と遺物	11
1	陥し穴	11
2	石器と土器	12
IV	古墳時代の遺構と遺物	13
1	竪穴住居址とその遺物	13
	H 2号住居址・H 3号住居址	13
	H 6号住居址・H 7号住居址	23
	H 9号住居址・H 10号住居址	31
V	奈良時代の遺構と遺物	36
1	竪穴住居址とその遺物	36
	H 1号住居址・H 4号住居址・H 5号住居址	36
	H 8号住居址・H 11号住居址	42
2	掘立柱建物址	48
3	土坑	48
4	ピット	49
VI	中世の遺構と遺物	50
1	火葬墓	50
2	堀跡	53
VII	調査のまとめ	55

1. 本書は、平成14年に発掘調査した佐久市大字岩村田字上ノ城に所在する上の城遺跡群上ノ城遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、佐久市が行う岩村田児童館建設事業に伴い、佐久市児童課の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査地籍は、佐久市大字岩村田字上ノ城2957-1、2957-2である。
4. 発掘調査は平成14年4月4日から同年6月1日の期間で行い、報告書は平成14年6月3日から平成15年3月の期間で作成した。
5. 発掘調査面積は786.8㎡である。
6. 発掘調査の組織は、以下の通りである。

調査受託者 教育長 高柳 勉

事務局 教育次長 黒沢 俊彦

文化財課長 嶋崎 節夫

文化財係長 森角 吉晴

文化財係 林 幸彦、三石宗一、須藤隆司
小林真寿、富沢一明、上原 学

山本秀典、出澤 力

調査担当 須藤隆司

調査員 浅沼ノブ江、岩崎重子、市川 昭

小幡弘子、柏木貞夫、柏木三郎、佐藤志げ子

小林 裕、神津ツネヨ、小金沢たけみ

小林まさこ、木内節雄、細萱ミズズ

7. 本書で掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000・1：50,000）、佐久市発行の基本図（1：2,500）を使用した。
8. 本書で使用した空中写真は、㈱共同測量社と㈱こうそくが撮影したものである。
9. 国家座標に基づく測量基準杭の設定は有限会社浅岡エンジニアリングに依頼した。
10. 遺物実測は岩崎重子、小幡弘子、佐藤志げ子、細萱ミズズが行い、遺構・遺物トレースは小幡弘子が行った。遺構・遺物写真は須藤隆司が撮影した。
11. 本書の執筆・編集は須藤隆司が行った。
12. 出土遺物および調査に関する記録類は一括して、佐久市教育委員会文化財課に保管してある。

1. 遺構の略称は以下の通りである。
 竪穴住居址→H 掘立柱建物址→F 火葬墓→FD
 土坑→D 堀跡→M 陥し穴→TD ビット→P
2. 挿図の縮尺
 遺構の縮尺は1/80が基本で、カマド・火葬墓1/40、堀跡平面1/160・断面1/100である。遺物の縮尺は1/4が基本で、玉・古銭原寸、石鏃・石鏃4/5、石斧1/2、鉄器・石製品1/3、石臼・凹石1/6、須恵器甕1/8である。図中にはスケールを付す。

3. 遺構の海拔標高は遺構ごとに統一し、水準標高を「標高」とした。
4. 遺物写真の番号・縮尺は挿図と同一である。
5. 土層の色調は【新版標準土色帖】に基づいた。
6. 遺構面積の計測にはプランメーターを用いた。
7. 一覧表の空欄は不明、推定値には△、現存置には*を付してある。遺物の単位はmm、g。
8. 挿図中におけるスクリーントーンは以下の表現である。また、Sは襷である。



地山断面



粘土



焼土



堀方



ロームブロック



黒色処理

挿 図 目 次

第1図	上ノ城遺跡の位置(1:50,000) ……	1	第23図	H1号住居址 ……	37
第2図	藤ヶ城跡と上ノ城遺跡の位置(1:5,000) ……	2	第24図	H1号住居址の土器・石器 ……	37
第3図	調査地と地籍図(1:500) ……	3	第25図	H4号住居址 ……	38
第4図	上ノ城遺跡遺構全体図(1:200) ……	6	第26図	H4号住居址の土器 ……	39
第5図	周辺遺跡の分布(1:25,000) ……	9	第27図	H5号住居址 ……	40
第6図	TD1号陥し穴 ……	11	第28図	H5号住居址の土器・鉄器・玉 ……	41
第7図	TD2号陥し穴 ……	11	第29図	H8号住居址 ……	43
第8図	縄文時代の石器・土器 ……	12	第30図	H8号住居址の土器・石器・鉄器 ……	44
第9図	H2号住居址 ……	14	第31図	H11号住居址 ……	45
第10図	H2号住居址の土器・玉 ……	15	第32図	H11号住居址の土器・鉄器 ……	46
第11図	H2号住居址の石器 ……	16	第33図	F1号掘立柱建物址 ……	48
第12図	H3号住居址 ……	18	第34図	D1号土坑 ……	48
第13図	H3号住居址の土器 ……	20	第35図	D2号土坑 ……	49
第14図	H3号住居址の石器・石製品・鉄器 ……	22	第36図	P1・2ピット ……	49
第15図	H6号住居址 ……	24	第37図	P3・4ピット ……	49
第16図	H6号住居址の土器 ……	26	第38図	FD1号火葬墓 ……	50
第17図	H6号住居址の石器・玉 ……	27	第39図	FD1号火葬墓に副葬された古銭 ……	51
第18図	H7号住居址 ……	29	第40図	FD2号火葬墓 ……	52
第19図	H7号住居址の土器・石器・玉 ……	30	第41図	FD3号火葬墓 ……	52
第20図	H9号住居址 ……	32	第42図	FD4号火葬墓 ……	52
第21図	H10号住居址 ……	32	第43図	M1堀跡とその遺物 ……	53
第22図	H10号住居址の土器 ……	34			

写 真 目 次

写真1	岩村田小学生遺跡を見学 ……	4	写真12	H2号住居址 ……	14
写真2	トレンチ調査 ……	4	写真13	H2号住居址の土器・石器・玉 ……	17
写真3	住居址を掘る ……	4	写真14	H3号住居址の炭化材(1) ……	19
写真4	炭化材を検出する ……	4	写真15	H3号住居址の炭化材(2) ……	19
写真5	掘跡を掘る ……	4	写真16	H3号住居址の炭化材(3) ……	19
写真6	竪穴住居址と堀跡 ……	5	写真17	H3号住居址の炭化材(4) ……	19
写真7	上ノ城遺跡の台地と湯川低地 ……	7	写真18	H3号住居址 ……	19
写真8	岩村田御新城分間縮図(市川忠三氏蔵) ……	8	写真19	H3号住居址堀方 ……	19
写真9	TD1号陥し穴とそのピット ……	11	写真20	H3号住居址カマド ……	19
写真10	TD2号陥し穴とそのピット ……	11	写真21	H3号住居址カマド構築石 ……	19
写真11	縄文時代の石器・土器 ……	12	写真22	H3号住居址の土器 ……	21

写真23	H 3号住居址の石器・石製品・鉄器	22	写真48	H 5号住居址の土器・鉄器・玉	41
写真24	H 6号住居址(1)	24	写真49	H 8号住居址	43
写真25	H 6号住居址(2)	25	写真50	H 8号住居址堀方	43
写真26	H 6号住居址の土器・石器・玉	28	写真51	H 8号住居址カマド	43
写真27	H 7号住居址	29	写真52	H 8号住居址入り口施設	43
写真28	H 7号住居址の土器・石器・玉	30	写真53	H 8号住居址の土器・石器・鉄器	44
写真29	H 9号住居址	32	写真54	H11号住居址	45
写真30	H10号住居址(1)	33	写真55	H11号住居址堀方	45
写真31	H10号住居址(2)	33	写真56	H11号住居址カマド	45
写真32	H10号住居址堀方	33	写真57	H11号住居址カマド構築材	45
写真33	H10号住居址床面中央の遺物	33	写真58	H11号住居址の土器・鉄器	47
写真34	H10号住居址カマド	33	写真59	F 1号掘立柱建物址	48
写真35	H10号住居址カマド構築石	33	写真60	D 1号土坑	48
写真36	H10号住居址カマド・床面の遺物	33	写真61	D 2号土坑	49
写真37	H10号住居址貯蔵穴(P5)	33	写真62	P 1・2ピット	49
写真38	H10号住居址の土器	35	写真63	P 3・4ピット	49
写真39	H 1住居址	37	写真64	FD 1号火葬墓	50
写真40	H 1号住居址カマド	37	写真65	FD 1号火葬墓に副葬された古銭	51
写真41	H 1号住居址の土器・石器	37	写真66	火葬墓群	51
写真42	H 4号住居址	38	写真67	FD 2号火葬墓の人骨	52
写真43	H 4号住居址堀方	38	写真68	FD 2号火葬墓の堀方と焼土	52
写真44	H 4号住居址カマド	38	写真69	FD 3号火葬墓の人骨と炭化物	52
写真45	H 4号住居址煙道部の土器	38	写真70	FD 4号火葬墓の人骨	52
写真46	H 4号住居址の土器	39	写真71	M 1号塚跡	54
写真47	H 5号住居址	40			

目次

表1	周辺遺跡一覧表	10	表12	H10号住居址土器一覧表	34
表2	縄文時代石器一覧表	12	表13	H 1号住居址土器一覧表	37
表3	H 2号住居址土器一覧表	15	表14	H 1号住居址石器一覧表	37
表4	H 2号住居址石器・玉一覧表	16	表15	H 4号住居址土器一覧表	39
表5	H 3号住居址土器一覧表	22	表16	H 5号住居址土器一覧表	41
表6	H 3号住居址石器・石製品・鉄器一覧表	22	表17	H 5号住居址玉・鉄器一覧表	41
表7	H 6号住居址土器一覧表	26	表18	奈良時代住居址計測表	42
表8	H 6号住居址石器・玉一覧表	27	表19	H 8号住居址土器一覧表	43
表9	H 7号住居址土器一覧表	30	表20	H 8号住居址石器・鉄器一覧表	44
表10	H 7号住居址石器・玉一覧表	30	表21	H11号住居址土器一覧表	46
表11	古墳時代住居址計測表	31	表22	H11号住居址鉄器一覧表	46

I 発掘調査の経緯

1 調査に至る経過

上の城遺跡群は、佐久市北部の岩村田市街地南側に位置し、千曲川支流の湯川が南流から西流に大きく方向を変える右岸の浅間山軽石流台地に立地する。

本遺跡群では昭和48年度に上の城遺跡が調査され、古墳～平安時代の住居址が49軒検出されている。昭和58年度には西八日町遺跡が調査され、弥生・奈良・平安時代の住居址146軒が検出された。平成7年度には中世の竪穴建物跡等27軒が観音堂遺跡で調査されている。

また、江戸時代末期に築城された藤ヶ城跡が存在し、今回の発掘調査地点である上ノ城遺跡は、その推定縄張り内に相当する。

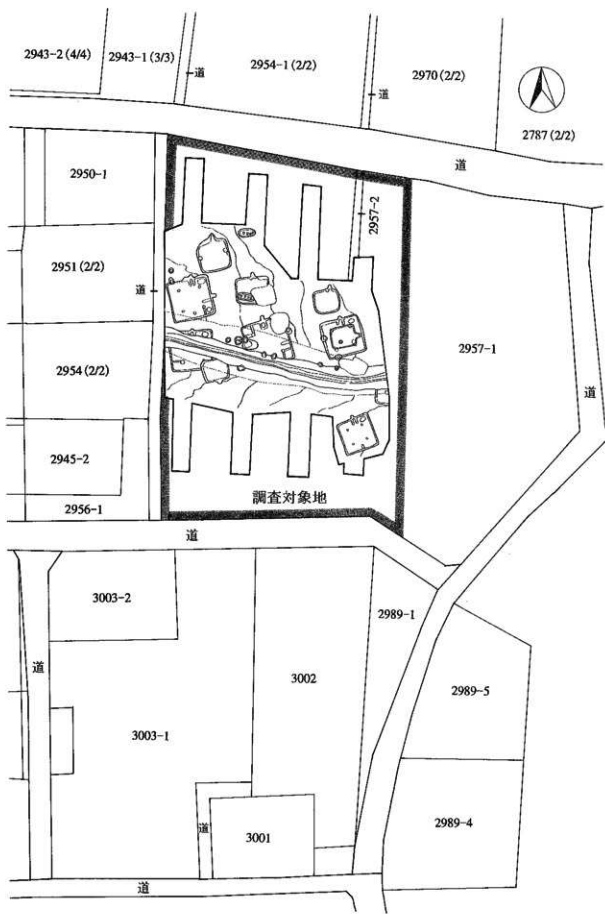
今回、佐久市児童課が遺跡群内に岩村町児童館建設事業を計画したため、建設予定地における遺構確認調査を実施した。その結果、竪穴住居址・堀跡・火葬墓等が確認されたため、佐久市児童課より委託を受けた佐久市教育委員会が発掘調査を行う運びとなった。



第1図 上ノ城遺跡の位置 (1 : 50,000)



第2図 藤ヶ城跡と上ノ城遺跡の位置 (1 : 5,000)



第3図 調査地と地積図 (1:500)

2 調査日誌

平成14年4月4日(木)・5日(金)

重機(バックホー0.45)を用いたトレンチ調査で遺構確認作業を行う。

4月8日(月)～4月12日(金)

調査員3名が参加する。重機により表土を除去し、遺構検出作業を行う。M1堀跡の掘り下げ作業を開始する。

4月15日(月)

本日より調査員13名体制で本格的に遺構の調査を開始する。仮設間エンジニアリングが測量基準杭を設定する。

5月13日(月)

午前中9時から11時の時間で、岩村田小学校6年の生徒160名を対象に遺跡説明会を行う。

5月14日(火)

午前中9時から11時の時間で、岩村田小学校5年の生徒160名を対象に遺跡説明会を行う。

5月15日(水)

㈱共同測量社がラジコンヘリにより遺跡の空中撮影を行う。午後、岩村田小学校3年生が遺跡見学を行う。

5月30日(木)・31日(金)

TD1・2号陥し穴の断り割り調査を重機を用いて行い遺構の調査を終了し、埋め戻し作業を開始する。

6月1日(土)

重機による埋め戻し作業を終了し、発掘調査を終了する。発掘調査には318人・39日を要した。

6月3日(月)～平成15年3月

報告書作成作業を行う。



写真1 岩村田小学生遺跡を見学



写真2 トレンチ調査



写真3 住居址を掘る



写真4 炭化材を検出する



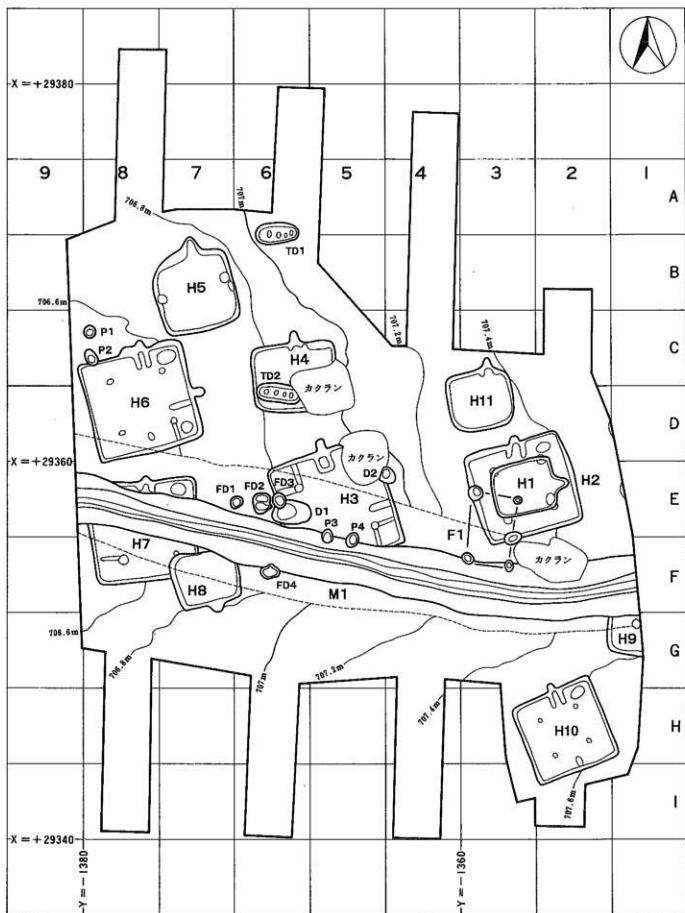
写真5 堀跡を掘る

3 調査の概要

遺跡名	うえのじょういせきぐんうえのじょういせき 上の城遺跡群上ノ城遺跡	奈良時代	竪穴住居址 5軒 H1・H4・H5 H8・H11
	略称 IUJ		土坑 1基 D1
所在地	長野県佐久市大字岩村田字上ノ城 2957-1,2957-2	中世	火葬墓 4基 FD1・FD2・FD3 FD4
開発主体	佐久市児童課		堀跡 1基 M1
開発事業名	岩村田児童館建設	不明	掘立柱建物址 1棟 F1
調査期間	発掘調査 平成14年4月4日～6月1日 整理調査 平成14年6月3日～ 平成15年3月		土坑 1基 D2
開発対象面積	1,700㎡ (建物面積330㎡)		ピット 4基 P1・P2・P3・P4
調査面積	786.8㎡	出土遺物	
検出遺構		縄文時代	石織 石錐 打製石斧 土器片
縄文時代	陥し穴 2基 TD1・TD2	古墳時代	土師器 須恵器 鉄織 白玉 砥石 福物石 磨石 軽石製品
古墳時代	竪穴住居址 6軒 H2・H3・H6 H7・H9・H10	奈良時代	土師器 須恵器 鉄織 苧引金具 白玉 砥石 石白 凹石
		中世	古銭 かわらけ 陶磁器 人骨



写真6 竪穴住居址と堀跡



第4図 上ノ城遺跡遺構全体図 (1:200)

II 遺跡の環境

1 地理的環境

佐久平は千曲川最上流部にある標高700m前後の高原性盆地である。その真中を南から北に対角線状に千曲川が流れ下っている。千曲川右岸の東部地域は佐久山塊の北半にあたり、荒船山・物見山・寄石山・八風山が主峰となる。ここを源流とする東西性の河川、内山川・志賀川・香坂川により谷底平野が形成されている。千曲川左岸の西部地域は蓼科山・八ヶ岳の山地からなり、その平地部は千曲川の氾濫源である。

佐久平北部は浅間山の噴出堆積物で形成され、軽石流堆積物の急崖が切り立つ田切地形が発達している。上ノ城遺跡は、佐久平の東北部にあり、東経138°29'5"、北緯36°15'53"、標高707mを測る。遺跡が立地する台地の東端・南端は、浅間山の東裾から流出し極端な蛇行曲流の河川である湯川の浸食により、高さ15mの断崖が形成されている。

この台地は黒斑火山の大規模な水蒸気爆発により崩壊した山体の堆積物である塚原泥流が基盤を構成し、厚さ30mの浅間第一軽石流(P1)堆積が覆う。噴出年代は、塚原泥流が約3万年前、浅間第一軽石流が約1万3~4千年前と推定されている。

上ノ城遺跡の基本土層堆積は以下の通りである。

第I層 暗褐色土 a (10YR3/4)、b (10YR3/3)
砂質。小礫を多量に含む。

第II層 黒褐色土 (10YR2/2)。20~30cm

第III層 褐色土 (10YR4/6) 漸移層。10cm

第IV層 浅間第一軽石流(P1)。

ただし、調査区東側・南側は第III層ないし第IV層まで削平された地点が多い。

基本的な遺構確認面は中世、奈良・古墳時代が第II層であり、縄文時代が第III層である。



写真7 上ノ城遺跡の台地と湯川低地

2 歴史的環境

上ノ城遺跡を取り巻く遺跡群を概観すると、遺跡から西方へ展開する湯川流域の段丘面に形成された遺跡群と岩村田市街地に展開する中世遺跡群がある。遺跡北部には田切台地を単位とした遺跡群が形成されている。また、北西部には、塚原泥流を形成要因とする残丘「流れ山」に構築された古墳群が存在する。

湯川流域遺跡群においてまず注目できる遺跡は、縄文時代草創期の爪形文土器が出土した左岸高位段丘に立地する寺畑遺跡である。堅穴住居址は確認されなかったが充実した土器・石器群が得られている。そして、右岸高位段丘に集中的に形成された弥生時代中・後期遺跡群のあり方が代表である。西一本柳遺跡・北西ノ久保遺跡が存在する範囲は、それぞれ100軒以上の堅穴住居址が確認された中核集落である。北西ノ久保遺跡に隣接する五里田遺跡では、円形周溝墓から銅劍、住居址から鉄劍・鉄剣が出土している。また、やや下流の左岸段丘に立地する根々井芝宮遺跡では中期の集

落が調査されており、黒曜石原石・黒曜石剥片が内部に貯蔵された壺が住居址から検出されている。

西一本柳遺跡では古墳時代でも拠点集落で奈良・平安時代と継続する。北西ノ久保遺跡では後期の円墳から多量の形象埴輪が出土しており独自の地域性を示している。奈良時代では、左岸低位段丘に立地する仲田遺跡の調査で住居址から花卉双蝶八花鏡が出土した。上ノ城遺跡の周辺では、上の城遺跡で古墳時代・平安時代の集落が調査されている。

岩村田市街地の中世遺跡では、観音堂遺跡で堅穴状遺構などの集落が調査された。柳堂遺跡では園池や掘立柱建物址などの館的遺構が検出され、内西浦遺跡では井戸跡や不規則な掘立柱建物址などの町人町を想像させる遺構が調査されている。大井城の黒岩城では多くの堅穴状遺構と大規模な掘立柱建物址が調査され、城郭の一端が垣間見られた。上ノ城遺跡で確認された堀跡は大井城の町割に関わろうか。



写真8 岩村田御新城分間縮図(市川忠三氏蔵)
写真下側が北、○が調査地点推定地

上ノ城遺跡は江戸時代末期に築城された藤ヶ城の縄張にある。隣接する岩村田小学校に本丸があり、木調査地点は外馬場と推定される。

佐久市北部の田切台地では古墳時代～平安時代の集落が大規模に展開する。その核となる遺跡が長土呂地

藩の聖原遺跡である。現在までに約1,000軒の住居址が確認され、「伯万私印」と刻まれた石製印、瓦塔片、「於寺」・「大方寺」の墨書・刻書土器、八段鏡などの特徴的な遺物が出土している。聖原遺跡は佐久郡衛の推定地を考える上で重要な位置を占めている。



第5図 周辺遺跡の分布 (1:25,000)

表 1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡群	遺跡名	所在地	立地	調査	発見	古墳	奈良	平安	中世・近世	備考
1	上の城	上の城遺跡	菅村町	第2段丘	TD1		H6	H5		FD3,M1	本館併蓄
2	上の城	上の城遺跡	菅村町	第2段丘			H15		H34		城跡
4	上の城	上の城付遺跡	菅村町	第2段丘						M1	
5	上の城	西八日町	菅村町	第2段丘	H7			H1339			
6	上の城	熊野古宮跡	菅村町	第2段丘					H1	Th7,FD17,DM3	第70巻
7	一本跡	西一本跡遺跡	菅村町	第2段丘			古墳				
8	一本跡	西一本跡遺跡	菅村町	第2段丘			H5				
9	一本跡	西一本跡遺跡	菅村町	第2段丘	H7				H10		
10	一本跡	西一本跡遺跡1	菅村町	第2段丘	HD,DM1						第34巻
10	一本跡	西一本跡遺跡2	菅村町	第2段丘							第37巻
10	一本跡	西一本跡遺跡3・IV	菅村町	第2段丘	H69		H75	H25	H20		第73巻
10	一本跡	西一本跡遺跡V・VI	菅村町	第2段丘	H4	H3			H1		第91巻
10	一本跡	西一本跡遺跡VII	菅村町	第2段丘	H8				H2		第98巻
11	中世・近世	菅村町(第1次)	菅村町	第2段丘	H61,DM1	H19,OT1,S7			H1	H6	奈良1984 中世8巻
11	中世・近世	菅村町(第2次)	菅村町	第2段丘	H67,D24	SM,D3					中世8巻
12	神社	五里田遺跡	菅村町	第1段丘	TD7	H43,EMAJM1	OT2				第74巻
13	中世・近世	菅村町(第1次)	菅村町	第1段丘			H19	H8	H15		第37・66巻
14	寺跡	菅村遺跡	菅村町	第1段丘			H10	H7	H11		第66巻
15	寺跡	菅村遺跡	菅村町	第2段丘			瓦葺		H1		第69・66巻
16	宮の上	藤ヶ谷古宮遺跡	菅村町	第2段丘		H43・D9	H3	H11			第99巻
17	大塚遺跡	大塚遺跡	菅村町	第2段丘						Th1,DM1	奈良1988
18	大塚遺跡	大塚遺跡	菅村町	第2段丘	D1		H15			Th5,FD128,DM2	奈良1986・1988 M4
19	大塚遺跡	大塚遺跡	菅村町	第2段丘			H1				奈良1986,第116巻
20	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地							中世9巻
21	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H2			Ta7	第55巻
22	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1・M2			Th7,FD13,D15,D6	奈良1990
23	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	HCL,EM3				H1		第85巻
24	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	FD2	Th,OT1,D4			H1	Ta38,D36,P4300	奈良1985
25	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H2				奈良1985
26	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H2				中世9巻
27	菅村町	菅村遺跡1	菅村町	田切台地			H2		H1		第102巻
27	菅村町	菅村遺跡II	菅村町	田切台地			H2,OT1		H2, F1		第53巻
27	菅村町	菅村遺跡III	菅村町	田切台地	H43,EM7	H27,OT1,F21			H4	M3	第102巻
27	菅村町	菅村遺跡IV	菅村町	田切台地			H1	H1			第102巻
28	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H19				奈良1985
29	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1				中世13巻
30	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			F19	H3			第101巻
31	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地							水廻り
31	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H4	H3	H10		第11巻
33	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H11				第12
33	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	D1	H1	H13	H9	H68	H6,F11	第12
33	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地						H40,F56	第12
34	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1			Th1,D5	第13巻
35	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H12	H8			第53巻
36	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1	H1	H1	Th82	第6巻
37	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地					H2		第18・41巻
37	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H5				第36巻
38	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	TD6						第41巻
39	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	TD1						第25・27・41巻
39	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地							第12
40	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地							第58巻
41	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地							第10・24・33・56巻
41	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	TD3		H16	H17	H14		第38
42	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1				第9巻
43	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H38	H8	H15		第9・20・83巻
44	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	H3						第79巻
45	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H37	H46	H25		第32・38巻
46	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H15		H4		第19・47・88巻
47	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H10		H5		第23・28巻
48	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H2	H1			第9・13巻
49	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H7		H2		第9巻
50	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地						H31	第69巻
51	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	TD4		H6	H2			第92巻
52	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H5				奈良1990
53	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H14	H10	H7		第76巻
54	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H2	H1	H4		奈良1984,第12巻
55	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	H23,TD2,DM2				H18		奈良1981
56	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H3				第92巻
57	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地							第46巻
58	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地					H11		第9巻
59	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H8				奈良1972
60	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1	H3			奈良1971
61	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地	H4		H4	H3	H6		七巻18巻
62	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			H1	H1	H2		第7巻
63	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			古墳				奈良1983
64	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			古墳				
65	菅村町	菅村遺跡	菅村町	田切台地			古墳				

H 環状遺跡 S 竪穴式石室
 Th 土坑式石室 PD 穴式石室
 F 環状土器遺跡 FD 穴式石室
 TM 内陣遺跡 D 土坑
 RM 方形土器遺跡 M 溝・溝
 OT 石室

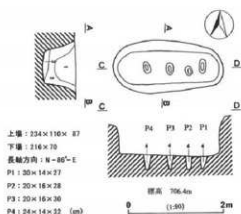
市教育委員会
 奈良文化財センター
 長府院蔵文化財センター

Ⅲ 縄文時代の遺構と遺物

1 陥し穴

TD1号陥し穴

A・B6グリッドⅢ層上面で検出された長楕円形を呈する土坑で、底部に4個のビットがある。各ビットには複数の木炭状堆積が見られる。長軸は東西方向である。遺物は検出されていないが、その検出面と形態から縄文時代の陥し穴と考えられる。



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック(～3cm)を含む。
- 2層 黄褐色ローム(10YR5/6)主体、黒褐色土ブロック(～10cm)を多く含む。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(～2cm)を多く含む。
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 褐色土ブロックを柱状状に多く含む。

第6図 TD1号陥し穴

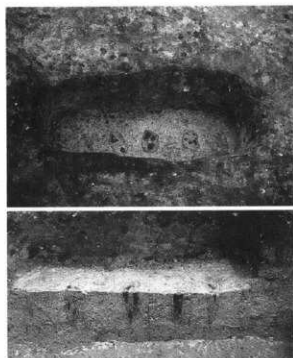
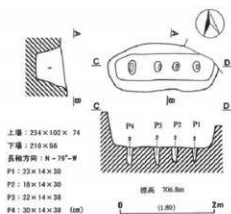


写真9 TD1号陥し穴とそのビット

TD2号陥し穴

D6グリッドのH4号住居土床下で検出された長楕円形を呈する土坑で、底部に4個のビットがある。遺物は検出されていないが、TD1号と形態・規模が同等であり、同時期に構築されたものと考えられる。両者は7.2mの間隔で南北に並ぶ。



- 1層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土ブロック(～10cm)を少量に含む。
- 2層 にぶい褐色土(7.5YR5/4) 褐色土ブロックを柱状状に多く含む。

第7図 TD2号陥し穴

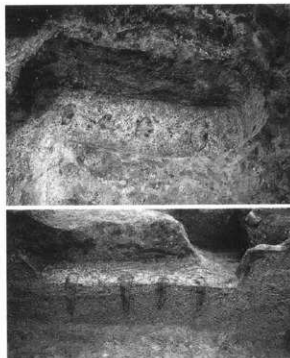


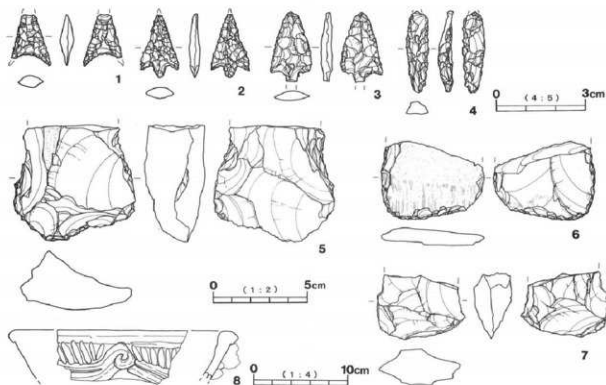
写真10 TD2号陥し穴とそのビット

2 石器と土器

縄文中期後半の土器片1点、石鏃3点、石錐1点、打製石斧3点が検出されている。

土器片はH2号住居址覆土2層から検出された口縁部破片である。石鏃は住居址覆土1層から検出された。有茎2点、無茎1点である。石材は黒曜石2点と頁岩

1点である。石錐はH5号住居址3層から検出された黒曜石製で、先端部が環状に摩滅し中央が突出している。打製石斧3点は黒色安山岩製で刃部側破片である。5の刃部は急角度で摩耗痕はない。6・7は刃部に顕著な摩耗痕跡が観察される。



第8図 縄文時代の石器・土器

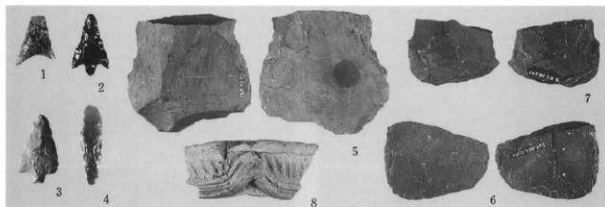


写真11 縄文時代の石器・土器

表2 縄文時代石器一覧表

番号	品類	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
1	石鏃	黒曜石	*17	13	4	0.6	H2号住居1層	先端・基部欠損
2	石鏃	黒曜石	*21	13	4	0.6	H6号住居1層	基部欠損
3	石錐	頁岩	*23	14	3	1.1	H1号住居1層	基部欠損
4	石鏃	黒曜石	*25	7.5	4	0.8	H5号住居2層	先端部摩滅
5	打製石斧	黒色安山岩	*61	64	29	126.8	D6号グランドII層	先端部・刃部摩滅
6	打製石斧	黒色安山岩	*41	55	8.5	24.1	H3号住居1層	先端部・刃部摩滅
7	打製石斧	黒色安山岩	*94	47	2	28.8	H2号住居床面	先端部・刃部摩滅

Ⅳ 古墳時代の遺構と遺物

1 竪穴住居址とその遺物

H 2号住居址 (第9～11図、写真12・13)

E 3グリッドを主体として、検出面Ⅱ層で確認された。F 1号独立柱建物址に切れ、H 1号住居址が住居中央に掘り込まれている。隅丸方形を呈し、南北長500cm、東西長470cm、壁残高78cm、面積23.8㎡の規模を有する。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2層、壁際の3層、柱穴上部・周溝を埋める4層、柱穴下部の5層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。周溝は北壁東側、東壁南隅を除いて存在する。掘方は柱穴間内中央(図点線範囲)を台状に掘り残すタイプである。主柱穴は4個(P 1～4)でカマド右脇に貯蔵穴と考えられるP 5がある。

カマドは北壁中央やや東よりに位置し、粘土で構築された両袖が部分的に確認された。右袖には構築材である割石の袖石が残存していた。

遺物は須恵器坏蓋、土師器坏、土師器甕、土師器壺、土師器壺、白玉、纏物石が得られている。第10図1の須恵器坏蓋はⅠ区2層から出土した。TK10北行と考えられようか。長い口縁部が反外し、口縁部と丸底の底部に稜が形成された同図2～4の坏は床面から出土している。半球状を呈し内外面が赤色塗彩された同図6の坏は、床面・カマドの出土である。全周の底部をなす同図7の甕と9の長胴甕はⅠ区床面、8の小形甕と10の壺はⅠ区2層から検出されている。

同図11～16の滑石製白玉はP 2西脇の床面に一括して廃棄されたものである。大きさは直径7mm程で孔径は2mm程である。上下面の構成が平面と斜めあるいは凹凸面からなる。纏物石と考えられる楕円形礫が24点出土している。そのうちⅢ区2層に13点、Ⅳ区床面南隅に6点の集中が見られた。明確な調整加工が施されたものは、片側縁に凹部が形成された第11図35の1点である。サイズは長さ7・8cm大が主体である。石材は湯川の河床安山岩礫と思われる。

本住居址の時期は、その須恵器・土師器の様相から6世紀中葉と考えられる。

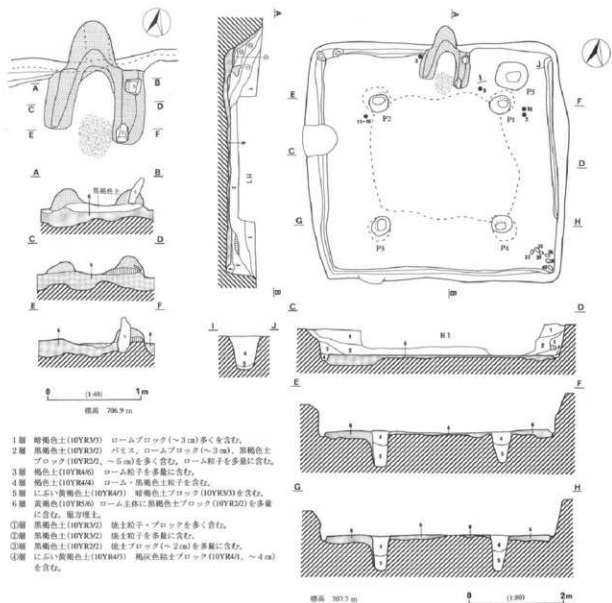
H 3号住居址 (第12～14図、写真14～23)

E 5グリッドを主体として、検出面Ⅱ層で確認された。FD 3火葬墓、M 1堀跡、D 1・2土坑、P 3・4ピットに切られる。Ⅰ区が擾乱、Ⅳ区・南壁がM 1堀跡で壊されているが、隅丸方形を呈し、推定南北長580cm、東西長580cm、壁残高70cm、推定床面積29.3㎡の規模を有する。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2層、柱穴の3層、周溝を埋める4層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。周溝は確認した範囲で壁際を巡る。掘方は柱穴間内中央を台状に掘り残すタイプである。主柱穴は4個と考えられP 2・P 4が確認されている。両柱穴には北・西壁に直行し周溝に連結する溝、東・南壁に直行し周溝に連結する溝が存在する。さらに、P 2の南側、P 4の北側に同様の規模で壁に直行して周溝に連結する溝が存在する。P 2と西壁を繋ぐ溝底部、東壁に繋がる溝底部は中央の高まりで2本に区分されている。

カマドは北壁中央に位置し、粘土で構築された両袖、割石で構築された焚き口部の両袖石とその天井石、同様に構築された煙道入り口部の両袖石とその天井石が残存していた。ただし、支脚石は確認されていない。

構築材と考えられる炭化材が住居址中央部と東西壁に沿って検出された。後者は壁に直行する遺存状態であった。これらは床面より上位の2層中から検出されており、主柱が存在しない点などから、住居廃絶時に構築材を燃やしたものと考えられようか。

遺物は、須恵器坏蓋、土師器坏、土師器高坏、土師器鉢、土師器壺、土師器甕、土師器壺、白玉、軽石製品、纏物石、鉄鍬が得られている。カマド右脇床面とⅡ区2層に遺物の集中部が見られた。前者では、第13図3・4の内面黒色処理された土師器坏、16の内外面ヘラミガキされた大形の土師器鉢、18・19のヘラミガキ後にヘラミガキが施された甕が廃棄されていた。後者では、6の小形単孔の土師器甕、7の底部全周の大形土師器甕、8・10の土師器小形、13の土師器小形



第9図 H2号住居址

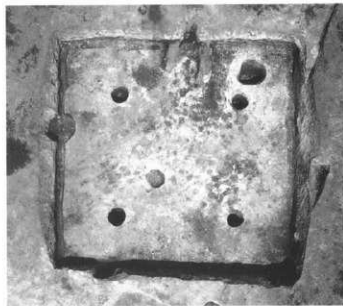
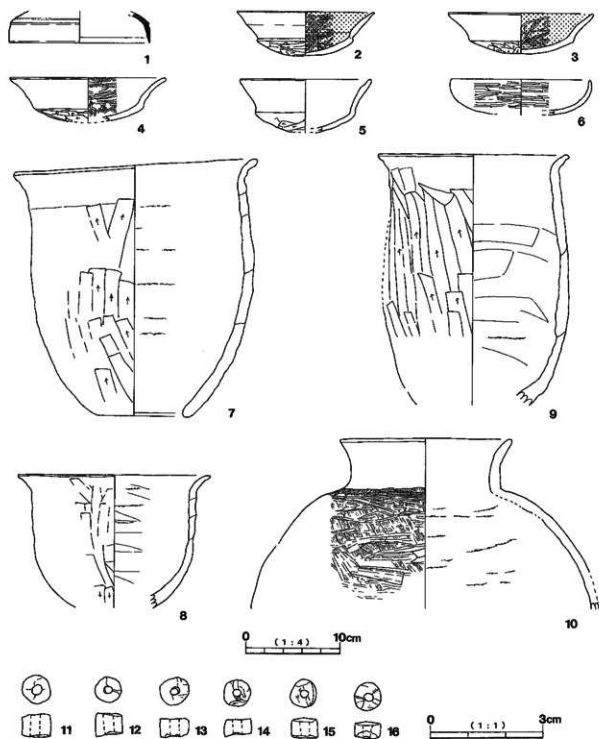


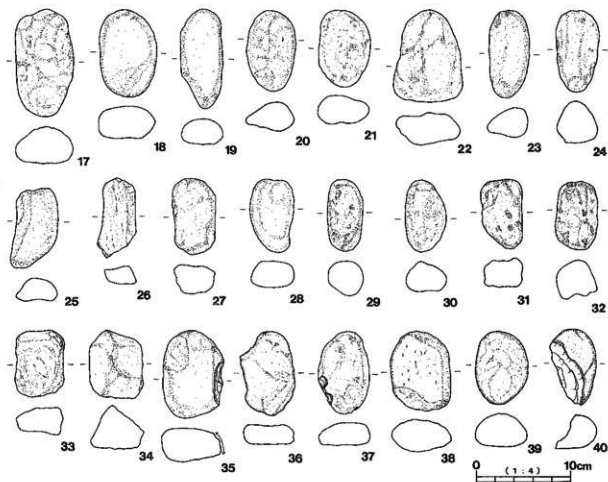
写真12 H2号住居址 (左上カマド、左下堀方)



第10図 H2号住居址の土器・玉

表3 H2号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	高さ	底面・裏面		出土位置	備考
						内面	外面		
1	須恵器	埴瓦	△150		*32			I区2層	
2	土師器	杯	144	102	47	内面：ヘラミガキ・黒色焼物	外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	I区1層	
3	土師器	杯	154	110	43	内面：ヘラミガキ・黒色焼物	外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	カマド左脇床面	
4	土師器	杯	166	115	△48	内面：ヘラミガキ	外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	IV区床面	
5	土師器	杯	△140	107	*56	内面：みこみ隠ナデ	口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	I区2層	
6	土師器	杯	△150		*37	内面：ヘラミガキ・赤色塗物	外面：ヘラミガキ・赤色塗物	II区灰皿・カマド	赤色塗物
7	土師器	壺	228	264	100	内面：ナデ	外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	I区床面	
8	土師器	壺	△324		*14	内面：ナデ	外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	I区2層	
9	土師器	壺	204		*265	内面：口縁ヨコナデ・底部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	I区床面	
10	土師器	壺	182		*180	内面：口縁ヨコナデ・底部ナデ	外面：底部ヘラケズリ・焼毛目・ヘラミガキ	I区2層	



第11図 H2号住居址の石器

表4 H2号住居址石器・玉一覧表

番号	目録	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土状況	備考
11	白玉	滑石	7.3	7.1	5.2	0.5	P2西端表面	孔径2.2
12	白玉	滑石	6.7	6.7	4.8	0.38	P2西端表面	孔径1.7
13	白玉	滑石	7	6.8	4.8	0.34	P2西端表面	孔径2.3
14	白玉	滑石	6.8	6.8	4.1	0.31	P2西端表面	孔径1.8
15	白玉	滑石	6.8	6.7	4.4	0.31	P2西端表面	孔径1.9
16	白玉	滑石	7	6.7	3.7	0.26	P2西端表面	孔径2
17	礫物石	火山岩	14.3	6.2	3.6	307.24	I区床面	
18	礫物石	火山岩	90	90	34	251.3	I区床面	
19	礫物石	火山岩	103	44	26	169.56	II区床面	
20	礫物石	火山岩	85	62	31	150.26	II区床面	
21	礫物石	火山岩	80	96	30	146.66	II区床面	
22	礫物石	火山岩	97	75	32	271.89	III区2層	
23	礫物石	火山岩	91	47	31	154.72	III区2層	
24	礫物石	火山岩	86	65	44	224.47	III区2層	
25	礫物石	火山岩	85	44	34	144.88	III区2層	
26	礫物石	火山岩	83	41	30	82.09	III区2層	
27	礫物石	火山岩	80	45	31	102.86	III区2層	
28	礫物石	火山岩	76	45	27	118.61	III区2層	
29	礫物石	火山岩	75	38	35	123.39	III区2層	
30	礫物石	火山岩	75	44	32	118.53	III区2層	
31	礫物石	火山岩	73	43	32	133.73	III区2層	
32	礫物石	火山岩	72	46	41	171.04	III区2層	
33	礫物石	火山岩	83	52	39	148.32	III区2層	
34	礫物石	火山岩	70	55	46	221.02	III区2層	
35	礫物石	火山岩	91	05	37	289.3	IV区床面	
36	礫物石	火山岩	88	53	20	137.13	IV区床面	
37	礫物石	火山岩	87	25	28	140.69	IV区床面	
38	礫物石	火山岩	82	64	32	184.82	IV区床面	
39	礫物石	火山岩	72	56	32	167.49	IV区床面	
40	礫物石	火山岩	780	47	36	126.19	IV区床面	欠損

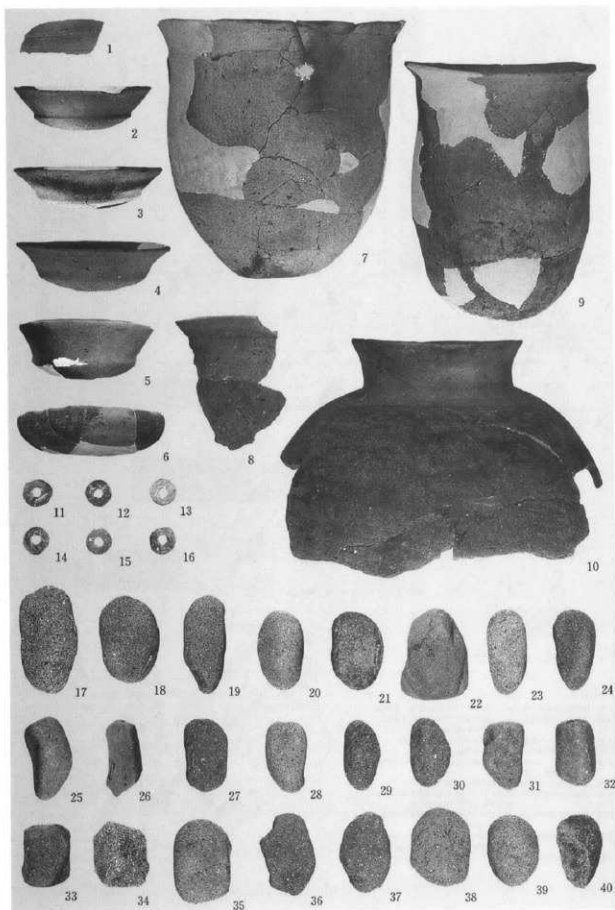
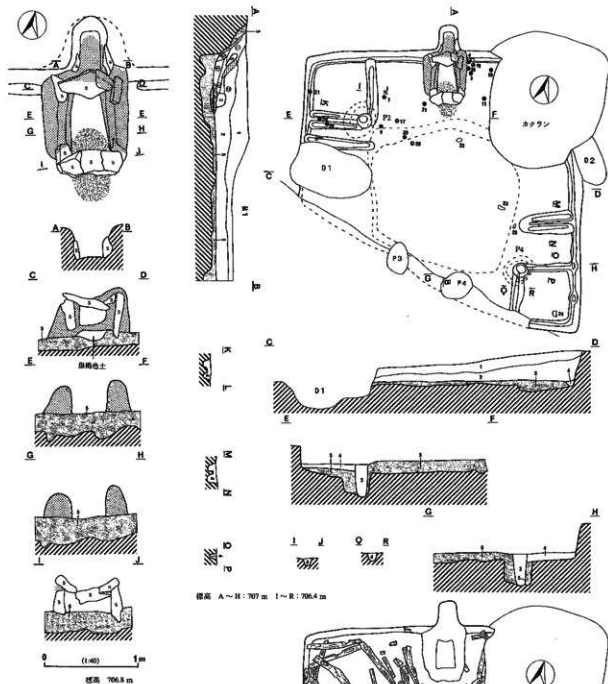


写真13 H2号住居址の土器・石器・玉



断面 A~H: 707 m 1~R: 706.4 m

- 1層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(~2 cm)を多く含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子を多く含む。粘土を含む。
炭化植物を多量に含む。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(~3 cm)を含む。
- 4層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子を多量に含む。
- 5層 黄褐色ローム(10YR5/5) 主体に暗褐色土ブロック(10YR3/2、~10 cm)を多量に含む。塩分増上。
- ①層 暗褐色土(10YR3/3) 粘土粒子を多く含む。
- ②層 黒褐色土(10YR3/2) 粘土ブロック(~2 cm)を多く含む。
粘土ブロック(~2 cm)を含む。
- ③層 黒褐色土(10YR3/2) 粘土ブロック(~4 cm)を多量に含む。
炭を多く含む。
- ④層 ①に近い黄褐色土(10YR4/3) 粘土・ロームブロック(~2 cm)、
暗褐色土ブロック(~5 cm)を含む。
- ⑤層 褐色土(10YR4/4) ロームブロック(~2 cm)を多量に含む。

第12図 H 3号住居址



写真14 H3号住居址の炭化材(1)



写真15 H3号住居址の炭化材(2)



写真16 H3号住居址の炭化材(3)



写真17 H3号住居址の炭化材(4)



写真18 H3号住居址



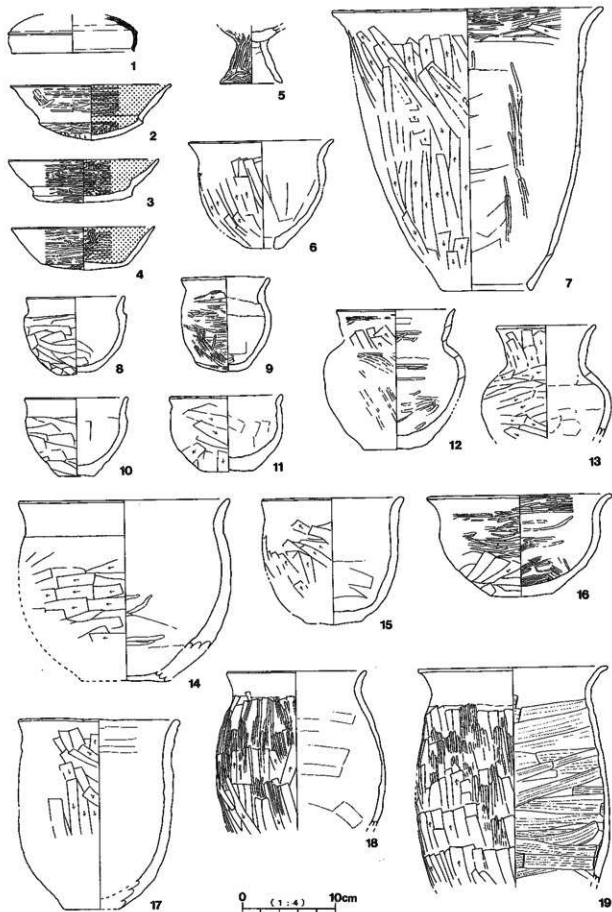
写真19 H3号住居址堀方



写真20 H3号住居址カマド



写真21 H3号住居址カマド構築石



第13図 H3号住居址の土器

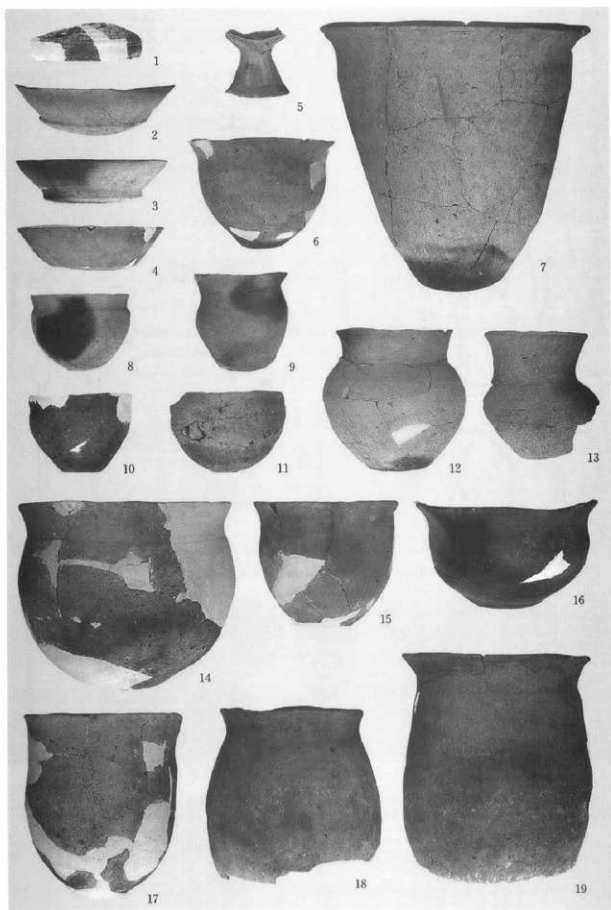
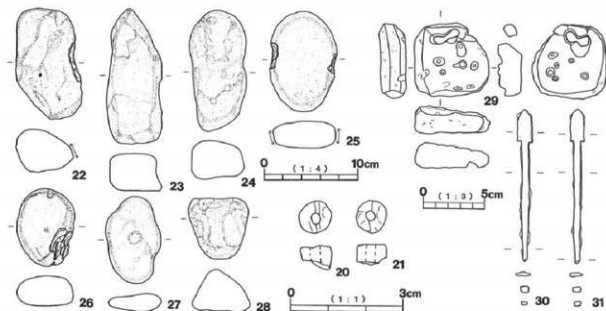


写真22 H3号住居址の土器

表5 H3号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	成形・装飾		出土位置	備考
						内面	外面		
1	類土器	厚盤	△130		●40			Ⅰ区2層	Ⅰ区と接合
2	土器	杯	△170	△110	56	内面：ヘラミガキ・黒色焼埋	外面：ヘラミガキ・底部ヘラタズリ	Ⅰ区1層	
3	土器	杯	160	105	46	内面：ヘラミガキ・黒色焼埋	外面：ヘラミガキ	カマド右輪床面	
4	土器	杯	152	93	43	内面：ヘラミガキ・黒色焼埋	外面：ヘラミガキ		
5	土器	高杯		66	●61	内面：ヘラミガキ	外面：ヘラミガキ	Ⅰ区1層	
6	土器	瓶	156	41	114	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	孔徑20
7	土器	瓶	289	△91	297	内面：ヘラタズリ・ヘラミガキ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
8	土器	甕	104	60	82	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
9	土器	甕	94	61	10	内面：ナデ	外面：ヘラタズリ・ヘラミガキ	Ⅰ区焼方埋土	
10	土器	甕	110	38	82	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
11	土器	甕	△120	70	148	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
12	土器	甕	△125	58	148	内面：ヘラミガキ	外面：口縁ヨコナデ・ヘラタズリ・胴部ヘラタズリ・ヘラミガキ	Ⅰ区2層	
13	土器	甕	108		●60	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
14	土器	甕	212	△92	190	内面：ナデ・ヘラミガキ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
15	土器	甕	190	△60	133	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
16	土器	鉢	△197	64	107	内面：ヘラミガキ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ・ヘラミガキ	カマド右輪床面	
17	土器	甕	171	△98	200	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ	Ⅰ区2層	
18	土器	甕	148		●179	内面：ナデ	外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラタズリ・ヘラミガキ	カマド右輪床面	
19	土器	甕	△201		●226	内面：脚付工具ナデ	外面：ヘラタズリ・ヘラミガキ	カマド右輪床面	



第14図 H3号住居址の石器・石製品・鉄器

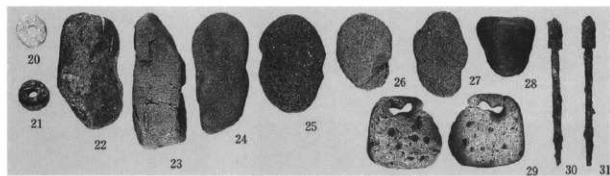


写真23 H3号住居址の石器・石製品・鉄器

表6 H3号住居址石器・石製品・鉄器一覽表

番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
20	白玉	滑石	8	7.9	5.7	0.44	Ⅰ区床面	孔徑2
21	白玉	滑石	8.4	7.9	4.7	0.49	Ⅰ区埋溝	孔徑26
22	燧石	安山岩	142	58	46	538.32	Ⅰ区床面	
23	燧石	安山岩	123	61	49	493.69	Ⅰ区2層	
24	燧石	安山岩	118	62	47	503.59	Ⅰ区2層	
25	燧石	安山岩	105	72	38	237.08	Ⅰ区2層	
26	燧石	安山岩	92	59	19	136.06	Ⅰ区床面	
27	燧石	安山岩	82	60	30	153.25	Ⅰ区2層	
28	燧石	安山岩	64	63.5	45	188.30	Ⅰ区2層	
29	軽石製品	軽石	36	36	20	17.15	Ⅰ区2層	
30	鉄鏃	鉄	120	11	3	10.71	Ⅰ区床面	
31	鉄鏃	鉄	122	11	3	10.37	Ⅰ区床面	

壺、14・17の土師器甕が主に炭化物の上部から検出された。

須恵器坏蓋の主体はⅡ区2層で出土しているが、H6号住居Ⅰ区床面検出の口縁部破片1点が接合している。MT15並行と考えられようか。

第14図20・21の清石製白玉は住居中央付近の床面と西壁周溝から検出されたもので、直径8mmほどの大きさである。同図30・31の細根系鉄鏝はカマド前面の床面出土である。22～28は編物石と考えられる楕円形河床礫でⅡ区2層、Ⅱ・Ⅲ区床面から検出されている。22の右側縁と25の両側縁には調整加工によって凹部が形成されている。29の軽石製品は上部に穿孔が施された資料で、Ⅱ区2層に廃棄されていた。

本住居址の時期は、土器様相から6世紀中葉と考えられる。

H6号住居址（第15～17図、写真24～26）

D8グリッドを主体として、検出面Ⅱ層で確認された。P2ピットに北壁西半上部を切られる。隅丸方形を呈し、南北長510cm、東西長510cm、壁残高68cm、面積25.9㎡の規模を有する。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2層、壁際3層、柱穴を埋める4層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。周溝は北壁西側、東・南壁、西壁中央部に存在する。掘方は柱穴間内中央を台状に掘り残す傾向にあるが、他の住居ほど明確な高低差はない。主柱穴は4個（P1～4）でカマド右脇に貯蔵穴（P5）がある。さらに、南壁中央に接して出入り口施設を想定させるP6、南東隅にP7が確認された。P4には南壁周溝に直行連結する溝が伴い、P4北側にはH3号住居と同様な東壁周溝に直行連結する溝が存在する。また、カマド煙道部と同様な掘り込みが東壁中央部に存在し、焼土面と平石の廃棄も確認された。P1～4.6の掘方はそれぞれ柱穴2本分を有し再構築の過程を示す。

カマドは北壁中央やや東よりに位置し、粘土・割石で構築された両袖が確認された。焚き口部、煙道入り口部に天井石はないものの、両袖に割石が据えられている。カマド前方に廃棄された平石が天井石などの構築材と考えられようか。燃焼部には割石の支脚石が残存していた。

遺物は須恵器坏蓋、土師器坏、土師器高坏、土師器手捏、土師器鉢、土師器甕、土師器壺、白玉、編物石、砥石、磨石が得られている。第16図1・4・6・9の土師器坏と16の土師器甕がカマド燃焼部、3の土師器坏と11の土師器手捏がカマド左脇床面、5の土師器坏がP5上面、15の土師器鉢がP6上面で検出された。白玉はカマド右脇床面で2点、カマド前面西の床面で4点の集中が見られた。

須恵器坏蓋は上述したように破片がⅠ区床面から出土し、H3号住居Ⅱ区2層出土の破片と接合したものである。土師器坏は第16図1～4の長い口縁部が外反し、口縁部と九底の底部に接が形成され、内面黒色処理された形態が主体である。第17図25～27の編物石は楕円形礫で明確な加工はない。磨石は楕円柱状礫の平坦な両側面と裏面に使用痕跡が観察されるもの（同図28・29）と楕円扁平礫の表裏面に使用痕跡が確認されるもの（同図30）が得られている。

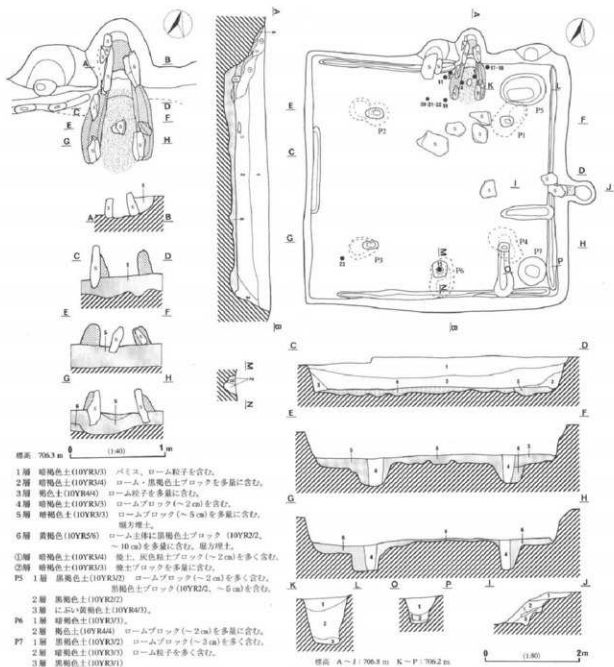
本住居址の時期は、土器様相から6世紀中葉と考えられる。

H7号住居址（第18・19図、写真27・28）

E8グリッドを主体として、検出面Ⅱ層で確認された。M1堀跡によって中央部が破壊されている。東西方向に長い隅丸方形を呈し、南北長推定490cm、東西長推定540cm、壁残高54cm、面積推定27㎡の規模を有する。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2層、壁際3層、柱穴を埋める4・5層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。周溝は北壁西側、西南隅を除いて存在する。掘方は柱穴間内中央を台状に掘り残す傾向にある。主柱穴は4個と想定され、P3・P4が確認されている。カマド右脇に貯蔵穴（P5）がある。これらは再構築されたものと考えられ、P3・P4ではそれ以前の柱穴場P③・P④がそれぞれの北側に存在し、P5では西側に以前の掘り込みがある。P3には西壁に直行する溝が付随する。ただし、西壁には周溝がなく連結しない。

カマドは北壁中央に位置し、粘土で構築された両袖の一部が確認されたが、上部はM1堀跡で削平され構造は明確ではない。

遺物は須恵器坏蓋、須恵器壺、土師器坏、土師器甕、



第15図 H6号住居址



写真24 H6号住居址(1)



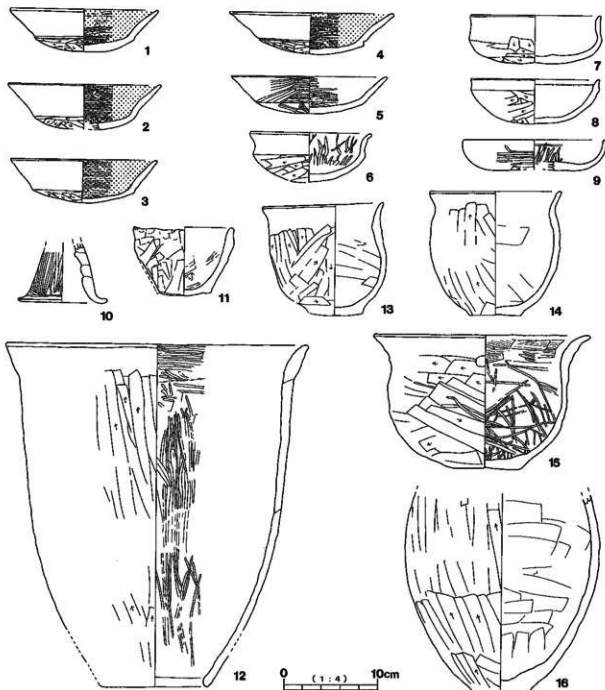


カマド



P5

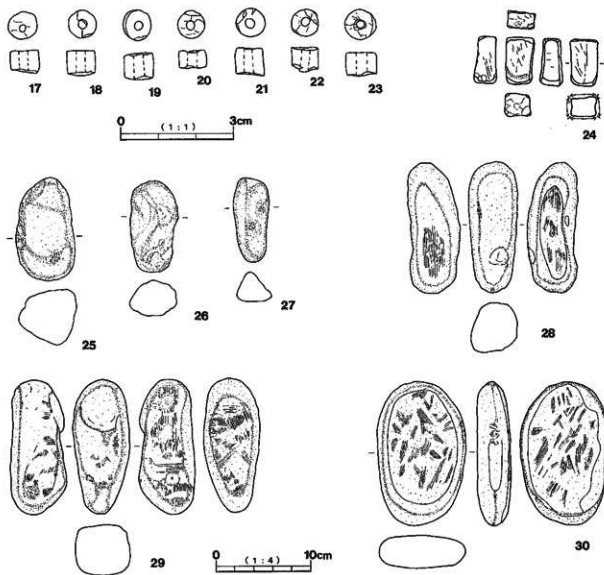
写真25 H6号住居址(2)



第16図 H 6号住居址の土器

表 7 H 6号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	底径・器高	土器位置	備考
1	土器器	杯	158	106	45	内面：ヘラミガキ・黒色地埋 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	カマド側縁部	
2	土器器	杯	164	108	49	内面：ヘラミガキ・黒色地埋 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	I区床面	
3	土器器	杯	156	108	47	内面：ヘラミガキ・黒色地埋 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	カマド左側床面	
4	土器器	杯	174	112	46	内面：ヘラミガキ・黒色地埋 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	カマド側縁部	
5	土器器	杯	△169	113	39	内面：ヘラミガキ 外面：ヘラミガキ	P 5	
6	土器器	杯	130	120	52	内面：ヘラミガキ 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	カマド側・I区床	
7	土器器	杯	△140	142	51	内面：みこみ筋ナデ・口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	IV区床面	
8	土器器	杯	△136	70	47	内面：みこみ筋ナデ・口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底縁ヘラケズリ	Ⅱ区1・2層	
9	土器器	杯	△152	△90	32	内面：ヘラミガキ 外面：口縁ヘラミガキ・底縁ヘラケズリ	カマド側縁部	
10	土器器	高杯	54	54	62	外面：ヘラミガキ	Ⅱ区床面	
11	土器器	平座	307	53	73	内面：口縁ヨコナデ・割縁ナデ 外面：口縁ヨコナデ・割縁ヘラケズリ	カマド右側床面	
12	土器器	瓶	△208	△110	262	内面：ヘラミガキ 外面：口縁ヨコナデ・割縁ヘラケズリ	Ⅱ区1層	
13	土器器	甕	128	65	117	内面：口縁ヨコナデ・割縁ナデ 外面：口縁ヨコナデ・割縁ヘラケズリ	Ⅱ区床面	
14	土器器	甕	△140	54	131	内面：口縁ヨコナデ・割縁ナデ 外面：口縁ヨコナデ・割縁ヘラケズリ	Ⅱ区1・2層	
15	土器器	鉢	230	78	141	内面：口縁ヘラナデ・割縁ナデ・ヘラミガキ 外面：割縁ヘラケズリ・ヘラミガキ	P 6上面	底縁木炭痕
16	土器器	甕	60	60	210	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ	カマド側縁部	底縁木炭痕



第17図 H6号住居址の石器・玉

表8 H6号住居址石器・玉一覧表

番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土状況	備考
17	白玉	滑石	7.2	6.8	6.7	0.56	カマド右端床面	孔径2.4
18	白玉	滑石	7.2	7.1	5	0.52	カマド右端床面	孔径2.3
19	白玉	滑石	7.6	7.3	6.3	0.6	カマド左端土角	孔径2.5
20	白玉	滑石	7	6.9	4.2	0.32	カマド左端床面	孔径2.2
21	白玉	滑石	7.1	7	6.7	6	カマド左端床面	孔径2.3
22	白玉	滑石	7	6.9	5.8	0.44	カマド左端床面	孔径2.4
23	白玉	滑石	7.9	7.6	5.4	0.58	溝区床面	孔径2.4
24	砥石	凝灰岩	51	30	25	51.94	Ⅱ区1層	
25	磨物石	安山岩	106	62	38	417.5	Ⅱ区2層	
26	磨物石	安山岩	96	52	37	255.61	Ⅱ区2層	
27	磨物石	安山岩	89	38	31	112.57	Ⅱ区床面	
28	磨石	安山岩	142	61	54	794.55	Ⅱ区2層	
29	磨石	安山岩	137	52	52	585.42	Ⅱ区2層	
30	磨石	安山岩	152	84	35	797.38	Ⅱ区床面	

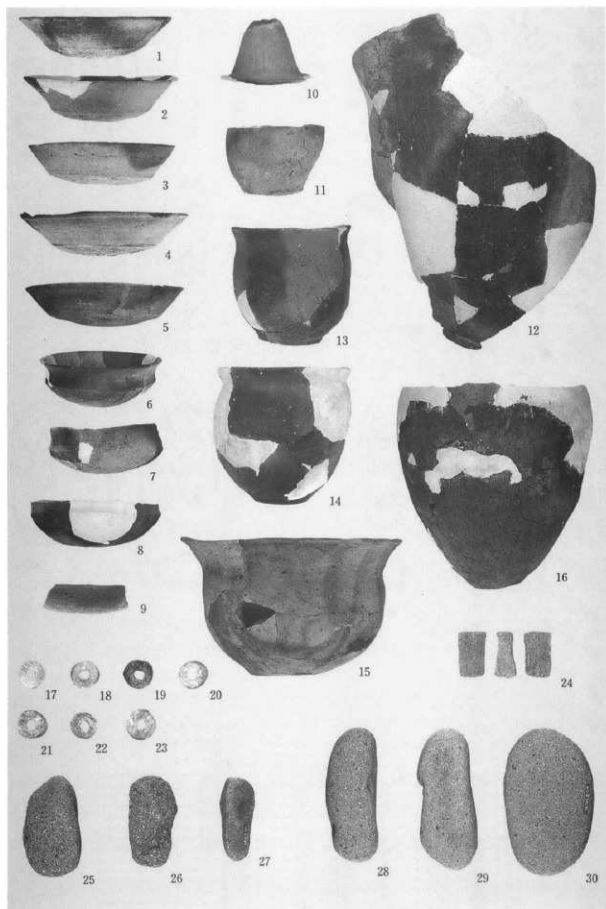
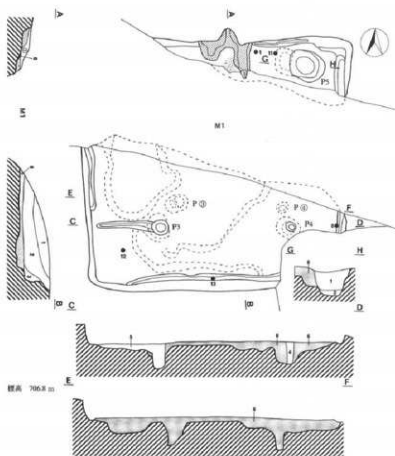


写真26 H6号住居址の土器・石器・玉



- 1層 暗褐色土(10YR3/3) バミス、ローム粒子を含む。
 2層 暗褐色土(10YR3/2) ロームブロック(~5cm)、
 黒褐色土ブロック(~6cm)を多く含む。
 3層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子を多量に含む。
 4層 暗褐色土(10YR3/2) ローム粒子を多く含む。
 5層 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック(~2cm)を
 多量に含む。
 6層 暗褐色土(10YR3/2) ロームブロック(~5cm)を
 多量に含む。埋方遺土。
 ①層 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロック(~2cm)を
 多く含む。

- P 5
 1層 暗褐色土(10YR3/2) ロームブロック(~2cm)を
 多く含む。
 2層 暗褐色土(10YR3/2) ローム粒子を含む。

0 1:500 2m

第18図 H7号住居址

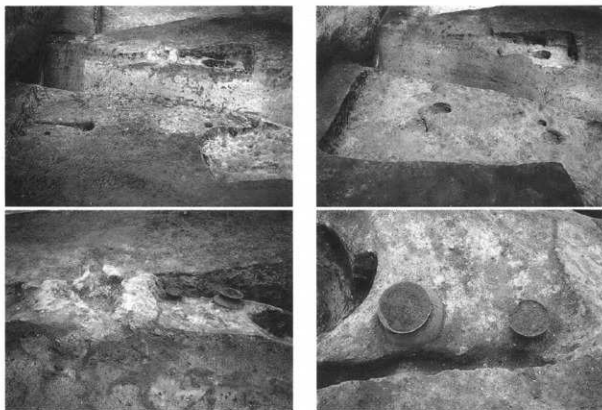
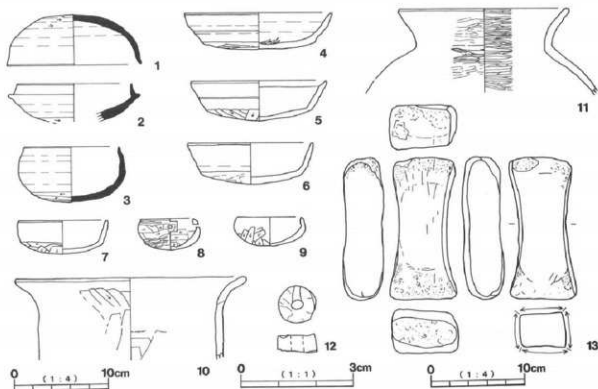


写真27 H7号住居址



第19図 H7号住居址の土器・石器・玉

表9 H7号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	底形・調整	出土位置	備考
1	灰土器	坏蓋	144		53	大身部回転ヘラケズリ	カマド右脇床面	
2	灰土器	坏	122		40	底面回転ヘラケズリ	竈区2層	高坪か
3	灰土器	器	△102		58	底面回転ヘラケズリ	1区床面	
4	土器器	坏	△156	△122	38	内面：みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	1層	
5	土器器	坏	△144	△122	42	内面：みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	1・竈区2層	
6	土器器	坏	132	110	43	内面：みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	竈区2層	
7	土器器	坏	93	88	35	内面：みこみ部ナデ・口縁ヨコナデ 外面：口縁ヨコナデ・底部ヘラケズリ	竈区床面	
8	土器器	坏	56	32	22	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ	竈区床面	穿孔あり
9	土器器	坏	68	33	23	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	竈区床面	
10	土器器	壺	△240		86	内面：口縁ヨコナデ・胴部ナデ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	竈区床面	
11	土器器	壺	183		86	内面：ヘラミガキ 外面：口縁・胴部ヘラミガキ、底部刷毛目	カマド右脇床面	

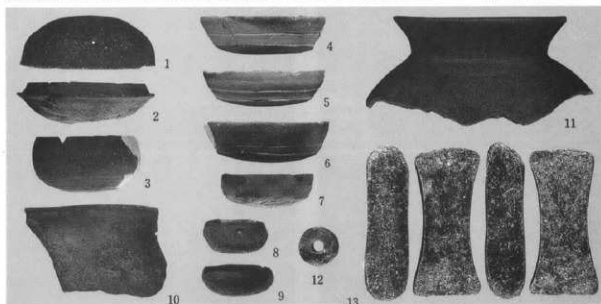


写真28 H7号住居址の土器・石器・玉

表10 H7号住居址石器・玉一覽表

番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
12	白玉	磨石	183.2	10	3.4	0.69	竈区2層	孔径3.2
13	緑石	炭酸岩	149	71	42	642.69	南壁面溝	

土師器壺、白玉、砥石が得られている。第19図1の須恵器坏蓋はカマド右脇床面、同図2の須恵器坏（高坏と思われる）はⅡ区2層上部で出土し、共にMT85ないしTK43並行と考えられる。同図3はⅠ区床面で検出された須恵器鉢ないし鉢で褐色では見られないタイプである。湖西窯の西笠子64窯に類例が求められようか。同図4～7は土師器坏で、4は1層、5・6は2層、7は床面で検出された。4～5は有段口縁坏である。同図8・9は坏の形状を呈するミニチュアの土師器でⅣ区床面で検出されている。8には口唇部に穿孔が施されている。同図10はⅣ区床面の土師器長胴甕、同図11はカマド右脇床面出土の土師器壺。同図12の白玉はⅢ区2層出土で、H2・3・6の白玉サイズが直径7mm程であるのに対して直径10mm程と大きなサイズである。同図13の流紋岩製砥石は南壁周溝から出土した分銅型で、表裏両側面の各面で使用度が高い。表裏面の中央は浅く窪む。

本住居跡の時期は、須恵器、土師器坏の様相から6世紀末葉～7世紀初頭と考えられる。

H9号住居跡（第20図、写真29）

G1グリッドで、検出面Ⅳ層で確認された。M1堀跡によって住居北半が破壊され、東半は調査区外であるため、住居南西隅部分の確認である。壁残高は45cmである。覆土は住居址上層を覆う1層と下層の2層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。明確な周溝は存在しない。堀方は柱穴円内中央を台状に掘り残す傾向にある。主柱穴は4個と想定されるが、P3のみ確認された。

遺物は土師器坏破片、土師器壺破片などが数片出土しただけで、実測図を提示できる資料は得られていない。ただし、古墳時代後期の土師器であることは明確である。

H10号住居跡（第21・22図、写真30～38）

H2グリッドを主体として、検出面Ⅳ層で確認された。隅丸方形を呈し、南北長422cm、東西長430cm、壁残高62cm、面積17.9㎡の規模を有する。他の住居址より一回り小形である。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2層、壁際・柱穴上部を埋める3層、周溝・柱穴下部を埋める4層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。明確な周溝が各壁に存在する。堀方は柱穴円内中央を台状に掘り残すタイプである。主柱穴は4個（P1～4）でカマド右脇に貯蔵穴（P5）がある。また、南壁中央に接して入り口部関連施設と考えられるP6が確認された。

カマドは北壁中央に位置し、粘土・割石で構築された両袖が確認された。焚き口部、煙道入り口に天井石はないものの両袖に割石が据えられていた（カマド前方に廃棄された平石の一部が天井石と考えられようか）。また、それらの中間にも袖構築材の割石が両袖に据えられていた。燃焼部には割石の支脚石が残存していた。

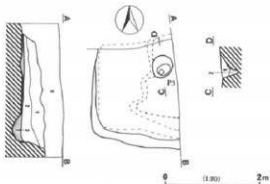
遺物は土師器坏、土師器瓶、土師器壺が得られている。第22図に図示した資料はカマド・貯蔵穴周辺と住居中央の床面に廃棄された資料である。貯蔵穴の周辺には同図12の胴部下半部に最大径のある長胴甕、7・8の小形甕があり、8の小形甕と長胴甕は完形の状態で廃棄されていた。カマド燃焼部からは1の坏が検出され、カマド左脇には、3の坏、4の小形半孔の瓶完形資料・6の小形甕完形資料が廃棄されていた。2の坏はP2脇の床面出土である。5の大形甕・9の小形甕・11の長胴甕は住居中央床面に潰れた状態で廃棄されていた。10の甕底部はP5脇の床面から得られている。石器、玉は確認されなかった。

時期 土師器坏、土師器長胴甕の形態から、6世紀前葉と考えられる。

表11 古墳時代住居址計測表

遺構名	主軸方位	南北長	東西長	壁残高	面積	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	備考
H2	N-16°-W	500	470	78	23.8	65	75	72	73	65×57×71			
H3	N-18°-W	580	580	70	29.3		75		67				
H6	N-16°-W	510	510	68	26.9	60	60	58	58	98×98×96	24	60×60×54	
H7	N-6°-W	490	540	54	27.0				55	47	75×54×90		P30 48, P328
H9									45				
H10	N-24°-W	422	430	62	17.9	45	50	45	40	72×50×70	10		

P1～4・6は縦さ、P5・7は長さ、幅、高さ、単位はcm、㎡



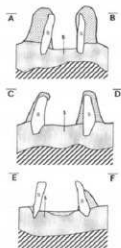
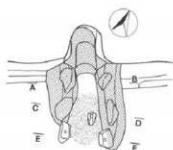
- 0層 覆瓦土・盛り土
 1層 褐色土(10YR4/4) パリス、ロームブロック(～3cm)を極めて多量に含む。
 2層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(～8cm)、異褐色土ブロック(～8cm)を多量に含む。
 3層 黄褐色(10YR5/6)ローム主体に異褐色土(10YR2/2)ブロックを含む。東方傾土。
 P1 1層 褐色土(10YR4/4)ローム粒子を多量に含む。
 2層 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒子を多く含む。

標高 AB: 708 m
 CD: 707.3 m

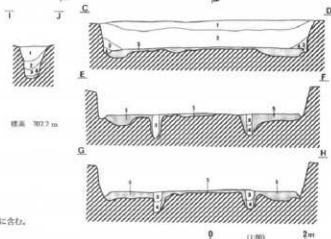
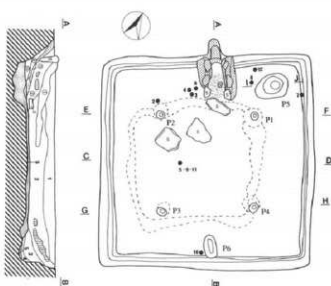
第20図 H 9号住居址



写真29 H 9号住居址



- 1層 暗褐色土(10YR3/2)パリス、ローム粒子を含む。
 2層 褐色土(10YR4/4) ロームブロック(～2cm)を多量に含む。
 黄色土(10YR2/2)ブロックを多く含む。
 3層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を多く含む。
 4層 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子を多量に含む。
 5層 黄褐色(10YR5/6)ローム主体に異褐色土(10YR2/2)ブロックを多量に含む。
 東方傾土。
 ①層 異褐色土(10YR3/1) 粘土ブロック(～3cm)を多量に含む。
 ②層 褐色土(10YR4/4) 粘土ブロックを含む。
 ③層 暗褐色土(10YR3/3) 粘土ブロックを多量に含む。
 ④層 異褐色土(10YR3/2)。
 ⑤層 褐色土(10YR4/4)。



- P5 1層 暗褐色土(10YR3/2) ローム粒子を多く含む。
 2層 暗褐色土(10YR2/2) ローム粒子を含む。
 3層 濃い黄褐色(10YR4/3) ロームブロック(～3cm)を多量に含む。
 4層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を含む。

第21図 H 10号住居址



写真30 H10住居址(1)



写真34 H10号住居址カマド



写真31 H10号住居址(2)



写真35 H10号住居址カマド構築石



写真32 H10号住居址掘方



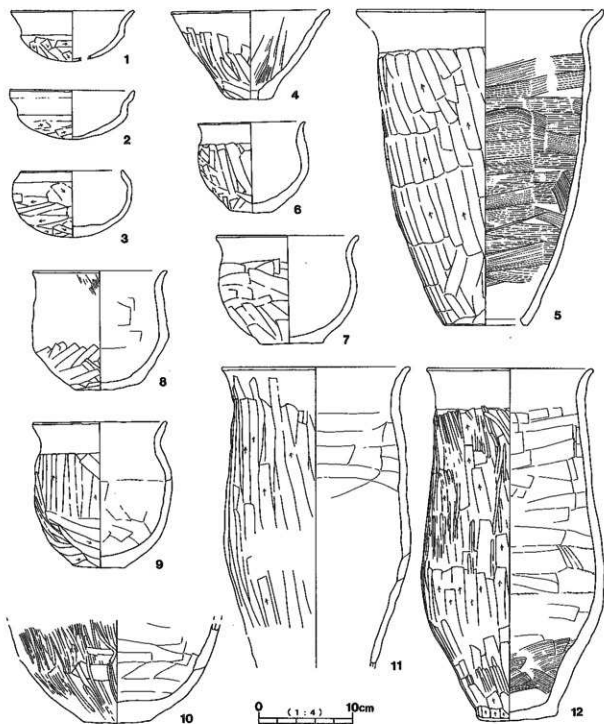
写真36 H10号住居址カマド・床面の遺物



写真33 H10号住居址床面中央の遺物



写真37 H10号住居址貯蔵穴(P5)



第22図 H10号住居址の土器

表12 H10号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	内面	外面	取土位置	備考
1	土師器	杯	130	110	54	内面：みこみ羅ナデ・白線ヨコナデ	外面：白線ヨコナデ・重線ヘラケズリ	カマド左脇底面	
2	土師器	杯	132	116	53	内面：みこみ羅ナデ・白線ヨコナデ	外面：白線ヨコナデ・重線ヘラケズリ	Ⅱ区南壁	
3	土師器	杯	106		71	内面：みこみ羅ナデ・白線ヨコナデ	外面：白線ヨコナデ・重線ヘラケズリ	カマド左脇底面	
4	土師器	碗	160	68	94	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ	外面：白線ヨコナデ・網羅ヘラケズリ	カマド左脇底面	孔徑22
5	土師器	碗	△262	90	332	内面：白線ヨコナデ・網羅毛目	外面：白線ヨコナデ・網羅ヘラケズリ	中央底面	孔徑25
6	土師器	碗	112	65	95	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ	外面：白線ヨコナデ・網羅ヘラケズリ	カマド左脇底面	
7	土師器	壺	152	65	115	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ	外面：白線ヨコナデ・網羅ヘラケズリ	Ⅰ区南壁	
8	土師器	壺	140	70	125	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ	外面：網羅ヘラケズリ・網羅毛目あり	カマド右脇底面	
9	土師器	壺	142	54	151	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ	外面：白線ヨコナデ・網羅ヘラケズリ	中央底面	
10	土師器	壺		68	*105	内面：ナデ	外面：ヘラケズリ・ヘラミギキ	南壁中央底面	
11	土師器	壺	200		*317	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ	外面：白線ヨコナデ・網羅ヘラケズリ	中央底面	
12	土師器	壺	177	82	320	内面：白線ヨコナデ・網羅ナデ・重毛目	外面：網羅ヘラケズリ・ヘラミギキ	カマド右脇底面	

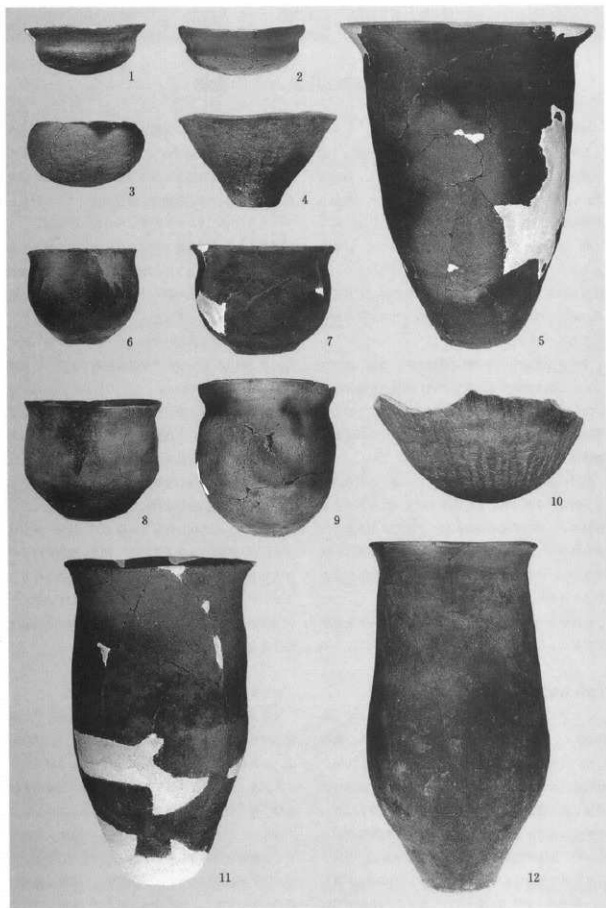


写真38 H10号住居址の土器

V 奈良時代の遺構と遺物

1 竪穴住居址とその遺物

H1号住居址 (第23・24図、写真39~41)

E3グリッドを主体として、H2号住居址覆土1層を検出面として確認された。隅丸方形を呈し、南北長258cm、東西長324cm、壁残高36cm、面積7.9㎡の規模を有する小形の住居址である。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2層、P1の3層に大別される。2層は人為埋土の傾向を示す。周溝、主柱穴は存在しない。住居址の堀方は明確でなく、カマド燃焼部で皿状の堀方が確認された。カマド右脇で確認されたP1は貯蔵穴であろうか。

カマドは東壁中央やや南に構築されており、他の住居址と方向を異にする。焚き口部の両袖石が残存していた。また、構築材と考えられる円礫がカマド前方床面に廃棄されていた。袖石やそれらに用いられた礫は浅間第一軽石流の軽石と河床礫である。

遺物は須恵器坏と石臼が得られている。これらはカマド前方の床面に礫と共に廃棄されていたものである。第24図1・2の須恵器坏は回転ヘラ切りで切り離した後手持ちヘラケズリで底部を調整したものである。同図3の石臼は安山岩を石材とし、表面にも直径2cmの凹部を有する。

本住居址の時期は、須恵器坏のあり方から8世紀後半と考えられようか。

H4号住居址 (第25・26図、写真42~46)

C6グリッドを主体として、II層を検出面として確認された。IV区は現代の掘削で破壊されている。東西に長い隅丸方形を呈し、南北長340cm、東西長400cm、壁残高58cm、推定面積13㎡の規模を有する。覆土は住居址上層を覆う1層、下層の2~4層に大別される。下層は人為埋土と考えられる。周溝、主柱穴は存在しないが、I区北壁に接して棚状の施設がある。これはIV層を掘り残したもので、上場長120cm・幅30cm、高さ34cmの規模を有する。堀方では5層下に旧床面が存在し本住居は拡張された可能性がある。

カマドは北壁中央に構築されている。構築材の主体は面取りされた軽石であり、扁平な河床礫と土師器甕片も用いられ暗褐色土で固定される。長さ80cmの煙道部には連結された土師器甕2個体が使用されていた。煙道入り口部には天井石を有する石組みが残存し、土師器甕片を含む黒褐色土で補強されていた。袖部は袖石一部の確認に止まった。燃焼部は南北50cm程の規模である。堀方は2段の掘り込みがあり、深い箇所は旧カマド位置を示唆しようか。

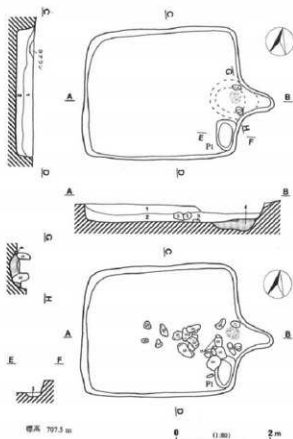
床面、覆土には良好な遺物はなく、カマドから図示した第26図1~3・5の土師器長胴甕と同図4の土師器小形甕が得られている。

1・2は煙道部に使用された甕で2に1が重なる形で連結されていた。2は底部が抜かれていた訳であるが、その底部も構築材として使用されていた。3~5も煙道入り口部・袖の構築材として使用されていたものである。2の長胴甕は最大径が胴部上半にあり、口縁部が「く」の字状に外反する器形で、胴部外面では上位に横方向のヘラケズリ、中・下位に縦方向のヘラケズリがなされたものである。他の甕も同様な在り方をなすが口縁部が「こ」の字状傾向を示している。

本住居址の時期は、土師器甕のあり方から8世紀後半と考えられようか。

H5号住居址 (第27・28図、写真47・48)

B7グリッドを主体として、II層を検出面として確認された。東西にやや長い隅丸方形を呈し、南北長350cm、東西長380cm、壁残高70cm、面積12.9㎡の規模を有する。覆土は住居址上層を覆う1・2層、下層の3層、壁際・柱穴の4層に大別される。3層は人為埋土と考えられる。ピットは3カ所に存在し、東壁中央にあるP1と西壁中央にあるP2が主柱穴と考えられる。西壁を除いて壁際に掘り込みが存在する。南壁は幅広い帯状のものである。北壁西側は周溝で、東側は浅い2つの窪みである。東壁はP1の周辺に周溝があり、北



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) パニス、ローム粒子を僅かに含む。
 2層 黒褐色土(10YR3/4) パニスを含む、ローム粒子を多く含む。
 3層 黒褐色土(10YR2/2)
 4層 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックを多く含む、カマド跡方埋土。

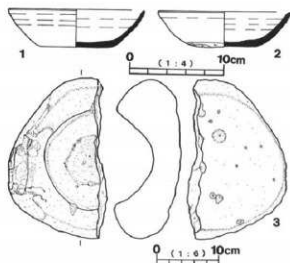
第23図 H1号住居址



写真39 H1号住居址



写真40 H1号住居址カマド



第24図 H1号住居址の土器・石器

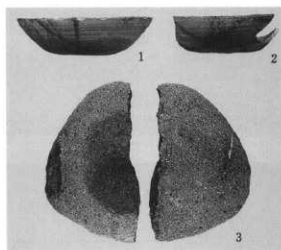


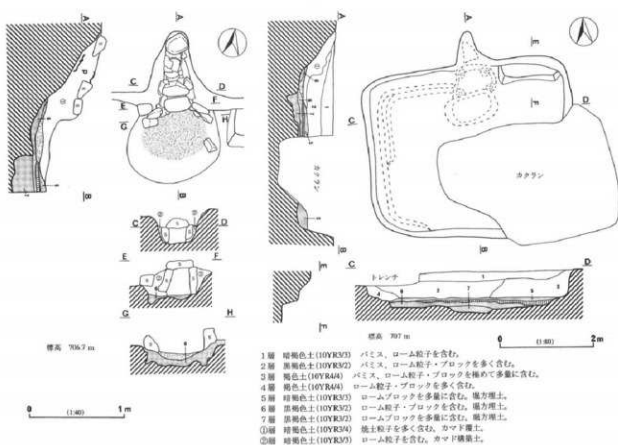
写真41 H1号住居址の土器・石器

表13 H1号住居址土器一覧表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	成形・調整	出土位置	備考
1	須臾器	埴	140	60	37	回転ヘラ切り、手持ちヘラケズリ	カマド前面面	火障あり
2	須臾器	埴	△144	70	40	回転ヘラ切り、手持ちヘラケズリ	カマド前面面	火障あり

表14 H1号住居址石器一覧表

番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
3	石臼	安山岩	257	●155	10	430	カマド前面面	火障なし、1.1H100



第25図 H4号住居址



写真42 H4号住居址



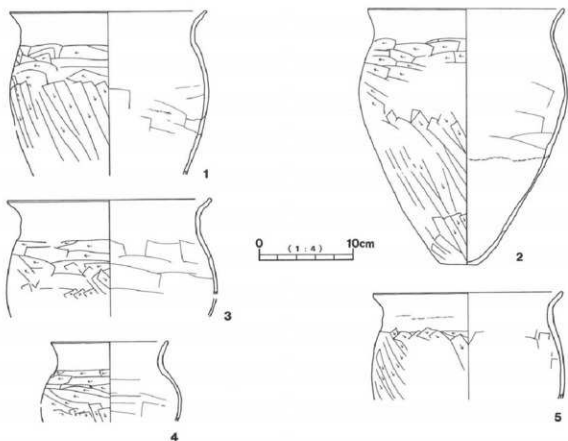
写真44 H4号住居址カマド



写真43 H4号住居址堀方



写真45 H4号住居址煙道部の土器



第26図 H4号住居址の土器

表15 H4号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	成形・調査	出土位置	備考
1	土師形	甕	206		●124	内面：ナデ 外面：13線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	カマド燃遺部	
2	土師形	甕	210	220	●12	内面：ナデ 外面：13線ヨコナデ・胴部・底部ヘラケズリ	カマド燃遺部	
3	土師形	甕	216		●124	内面：ナデ 外面：13線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	カマド燃遺部	
4	土師形	甕	126		●84	内面：ナデ 外面：13線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	カマド燃遺部	
5	土師形	甕	△202		●113	内面：ナデ 外面：13線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	カマド燃遺部	

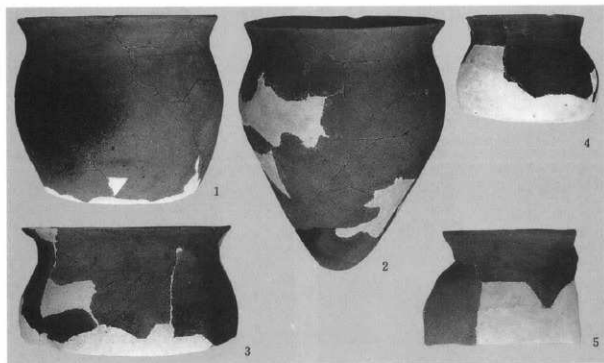
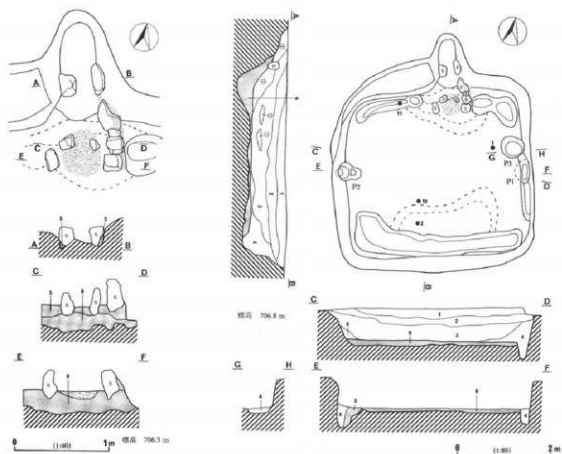


写真46 H4号住居址の土器



1層 黒褐色土(10YR3/2) パミス、ローム粒子を含む。

2層 黒褐色土(10YR3/2) パミス、ローム粒子を多く含む。

3層 黒褐色土(10YR2/2) パミス、ロームブロックを多量に含む。

4層 暗褐色土(10YR3/3) パミス、ローム粒子を含む。

5層 褐色土(10YR4/4) ロームブロック(〜2cm)を多量に含む。

6層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(〜5cm)を多量に含む。焼方埋土。

①層 暗褐色土(10YR3/3) に近い黄褐色(10YR5/4)粘土ブロック(〜10cm)を含む。

第27図 H5号住居址

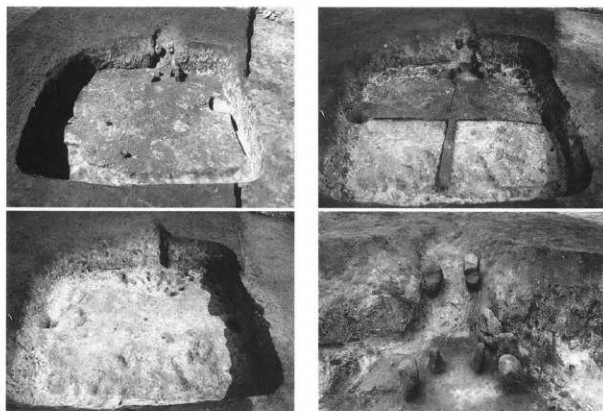
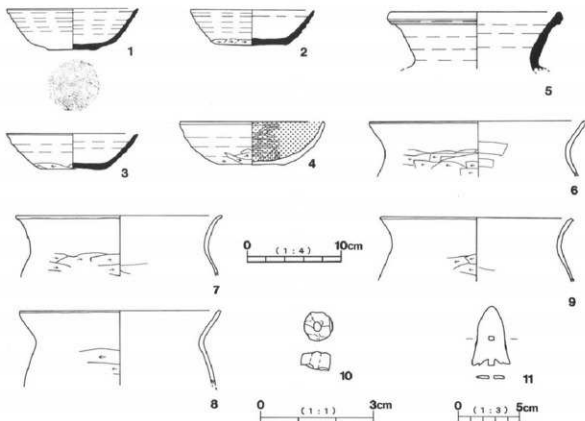


写真47 H5号住居址



第28図 H5号住居址の土器・鉄器・玉

表16 H5号住居址土器一覽表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	形状・調整	出土位置	備考
1	煎煮器	杯	140	55	43	同軸糸切り	I区床	
2	煎煮器	杯	132	74	37	同軸ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	II区床	火障あり
3	煎煮器	杯	△140	△68	37	同軸ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	オマド熱燗部	火障あり
4	土師器	杯	154	20	40	内面：ヘラミガキ・黒色焼成 残部：底部手持ちヘラケズリ	II区床面	
5	煎煮器	煎煮器	△184		●62		II区床面	
6	土師器	壺	△231		●58	内面：ナデ 外面：I線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	II区2層	
7	土師器	壺	△220		●64	内面：ナデ 外面：I線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	I区3層	
8	土師器	壺	△206		●67	内面：ナデ 外面：I線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	II区床面	
9	土師器	壺	△214		●79	内面：ナデ 外面：I線ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	オマド熱燗部	

表17 H5号住居址玉・鉄器一覽表

番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
10	玉	滑石	7.6	7.4	4.2	0.35	II区床面	孔径2.2
11	鉄器	鉄	46	30	20	5.79	II区床面	

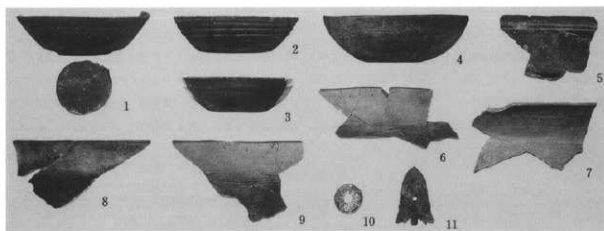


写真48 H5号住居址土器・鉄器・玉

側にあるP3に連結している。北壁西側上部は緩やかな傾斜をなしており、上面プランが弧状を呈している。堀方では、カマド燃焼部と住居南側中央部の掘り込みが著しい。

カマドは北壁中央に構築されている。加工された軽石、河床礫、粘土を構築材とする。右袖、煙道入り口、焚き口部に袖石が残る。燃焼部には並存する支脚石2個が埋め込まれていた。

遺物は須恵器坏、須恵器短頸壺、土師器坏、土師器長胴甕、白玉、鉄鏃が得られている。第28図1・2の須恵器坏、同図4の土師器坏、7・8の土師器甕、白玉、鉄鏃が床面出土、3の須恵器坏がカマド燃焼部の出土である。1の須恵器坏は底部が回転糸切りで切り離されたものである。2・3の須恵器坏は、回転ヘラ切りで切り離した後手持ちヘラケズリで底部が調整されている。4の土師器坏は内面ヘラミガキ・黒色処理、底部手持ちヘラケズリが施されている。6～8は口縁部が「コ」の字状傾向に外反する土師器長胴甕である。10の滑石製白玉は直径7mmほどで古墳時代の白玉と同型である。

本住居址の時期は、須恵器・土師器のあり方から8世紀後半と考えられようか。

H 8 号住居址 (第29・30図、写真49～53)

F7グリッドを主体として、Ⅲ層を検出面として確認された。M1堀跡によってカマド・北東隅を破壊されている。H7号住居址を切る。東西にやや長い隅丸方形を呈し、南北長250cm、東西長320cm、壁残高60cm、推定面積7.8㎡の規模を有する。覆土は住居址中央を覆う1層、壁際の2層に大別されるが、共に人為埋土と考えられる。南側中央やや東側に入り口施設と考えられる長さ55cm・幅70cmの張り出し部が確認された。ピットは存在しなかったが、張り出し部直下の堀方に浅い掘り込みが確認された。

カマドは前述したように煙道部が破壊されているが、

北壁東側で燃焼部と焚き口部の両袖石が確認された。袖石は安山岩、溶結凝灰岩の扁平な楕円礫を用いていた。

遺物は須恵器坏、須恵器高台付坏、土師器甕、砥石、凹石、鉄鏃が得られている。第30図1・2の須恵器坏、同図4の須恵器高台付坏、5の土師器甕がカマド前面東側の床面に、7の砥石が南東隅床面に廃棄されていた。6の砥石、8の凹石、9の片根系鉄鏃は覆土中の遺物である。1～3の須恵器坏は回転ヘラ切り・手持ちヘラケズリで成形されたものである。

本住居址の時期は、須恵器・土師器のあり方から8世紀後半と考えられようか。

H11号住居址 (第31・32図、写真54～58)

D3グリッドを主体として、Ⅲ層を検出面として確認された。東西にやや長い隅丸方形を呈し、南北長284cm、東西長314cm、壁残高62cm、面積8.1㎡の規模を有する。覆土は住居址中央を覆う1層、壁際の2層に大別されるが、共に人為埋土と考えられる。周溝・柱穴は存在しない。

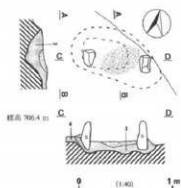
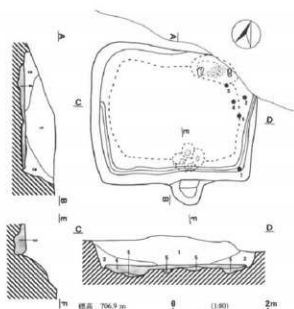
カマドは、北壁東側に構築されている。煙道部入り口部の石組みと両袖の一部、燃焼部と支脚石2個が確認された。粘土・面取りした軽石、そして須恵器大甕破片を構築材としていることを特徴とする。

遺物は、須恵器坏蓋、須恵器大甕、土師器甕、鉄鏃、李引金具が得られている。これらの遺物は床面とカマドに廃棄されていたものである。第32図4の須恵器大甕はカマドの構築材として用いられたものである。5の須恵器大甕はカマド前面の床面に廃棄されていたものであるが、この資料にはH5号住居址のカマド・床面・覆土に廃棄された5点の資料が接合している。1の須恵器坏蓋は回転ヘラケズリで成形されたものである。3の土師器甕はやや「コ」の字状の口縁をなす。

本住居址の時期は、須恵器・土師器のあり方から8世紀後半と考えられようか。

表18 奈良時代堅穴住居計測表

遺構名	主軸方位	南北長cm	東西長cm	壁残高cm	面積㎡	ピットcm
H1	N-77°-E	256	324	55	7.9	P1:南北23×東西26×深さ10
H4	N-4°-W	340	400	58	15.0	
H5	N-17°-W	350	380	70	12.9	P1:長さ34、P2:長さ42、P3:高さ12
H8	N-14°-W	250	320	50	7.8	
H11	N-11°-W	284	314	62	8.1	



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)・ロームブロック(～5cm)を多量に含む。住居埋土。
- 2層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土(10YR2/2)・ロームブロック(～2cm)を多量に含む。住居埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(～2cm)を多く含む。
- 4層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(～10cm)を多量に含む。堀方埋土。
- 5層 褐色土(10YR4/4) ローム主体に黒褐色土ブロック(10YR3/2、～3cm)を含む。堀方埋土。

第29図 H 8号住居址



写真49 H 8号住居址



写真51 H 8号住居址カマド

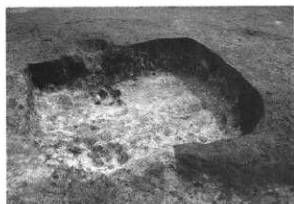


写真50 H 8号住居址堀方

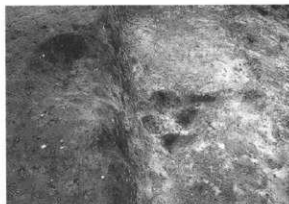
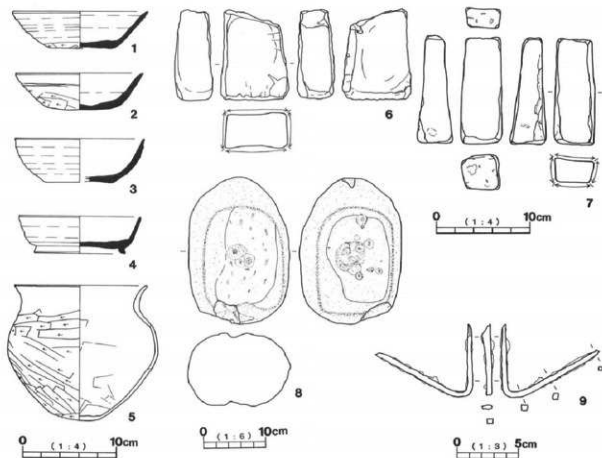


写真52 H 8号住居址入り口施設

表19 H 8号住居址土器一覧表

番号	器種	器形	口径	底径	高さ	成形・調整	出土位置	備考
1	須恵器	埴	144	70	49	回転ヘラ切り、手持ちヘラケズリ	1区床面	火埴あり
2	須恵器	埴	136	75	39	回転ヘラ切り、手持ちヘラケズリ	1区床面	火埴あり
3	須恵器	埴	△138	△70	46	回転ヘラ切り、手持ちヘラケズリ	五区1層	火埴あり
4	須恵器	埴	130	96	39	回転ヘラ切り、高台取り付け	1区床面	火埴あり
5	土師器	壺	141	55	143	内面：ナデ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	カマド裏床面	



第30図 H8号住居址の土器・石器・鉄器

表20 H8号住居址石器・鉄器一覧表

番号	種類	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
6	砥石	流紋岩	●96	72	27	385.95	墓区1層	欠損
7	砥石	流紋岩	113	44	33	238.31	墓南隅床面	
8	卵石	安山岩	235	163	120	3610	墓区2層	
9	鉄器	鉄	△138	7	4	12.43	墓区1層	柄の曲がり

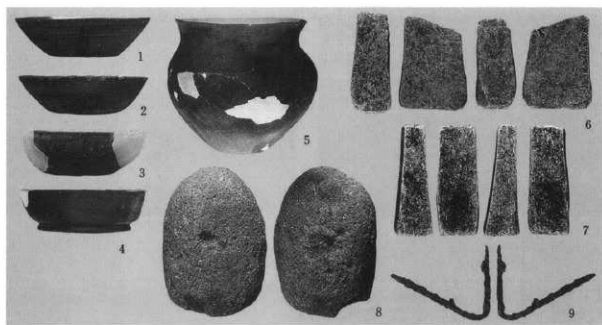
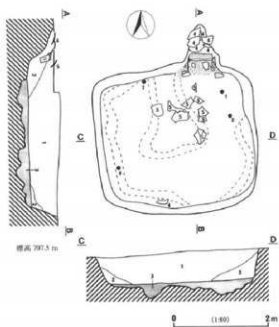
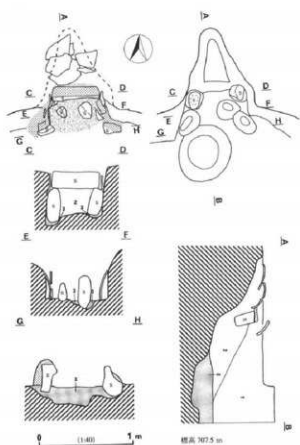


写真53 H8号住居址の土器・石器・鉄器



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土ブロック(10YR2/2, ~5cm)・ロームブロック
 (~8cm)を多量に含む。
 2層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子を多量に含む。
 3層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(~10cm)を多量に含む。硬方雑土。

第31図 H11号住居址



写真54 H11号住居址



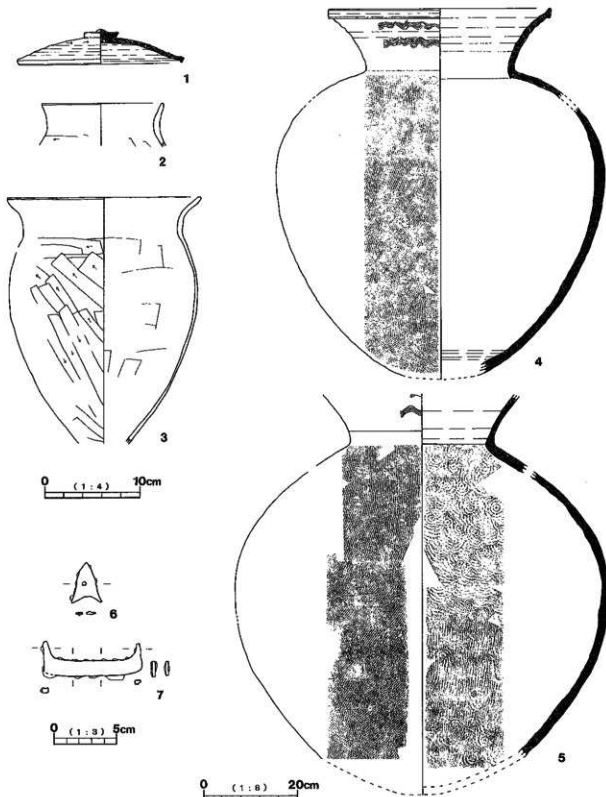
写真56 H11号住居址カマド



写真55 H11号住居址堀方



写真57 H11号住居址カマド構築材



第32図 H11号住居址の土器・鉄器

表21 H11号住居址土器一覧表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	成形・装飾	表土位置	備考
1	須恵器	瓦葺	172		32	天布織原形ヘラケズリ	1区底面	火焼あり
2	土師器	甕	204		*46	内面：ナデ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	1区底面	
3	土師器	甕	204		*261	内面：ナデ 外面：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	コマド壺底部	
4	須恵器	甕	△470		*781	内面：ナデ 外面：曜々目	コマド壺底部	
5	須恵器	甕			*705	内面：同心円文 外面：叩き目		目5と横合

表22 H11号住居址鉄器一覧表

番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	出土位置	備考
6	鉄錐	鉄	32	21	18	2.74	1区底面	乳鉢2.2
7	中引金具	鉄	27	77	30	12.66	1区底面	

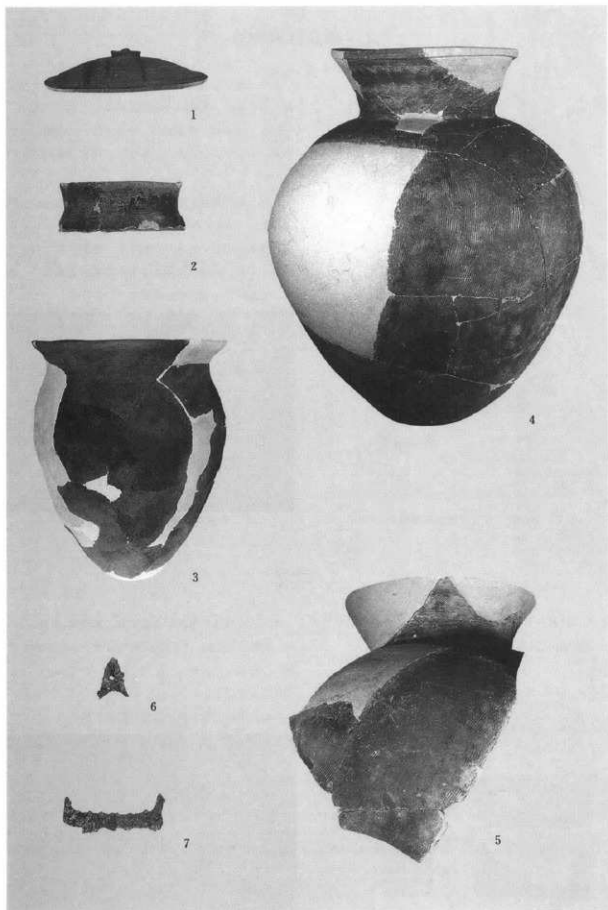
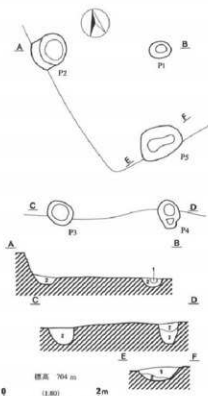


写真58 H11号住居址の土器・鉄器

2 掘立柱建物址



- 1層 暗褐色土(10YR3/3)
2層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(～3cm)を多く含む。
3層 黄褐色ローム(10YR5/6)主体、黒褐色土(10YR3/2)ブロックを多量に含む。

第33図 F1号掘立柱建物址

F1号掘立柱建物址1棟がE3、F3グリッドで検出されている。時期は不明確であるが、本章で扱う。

P3・4がM1号堀跡に、P1がH1号住居址に切られ、P2がH2号住居址を切る。遺物は検出されていない。

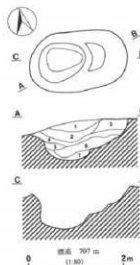
1×1間の欄柱式のものである。桁行長340cm、梁間長230cm、主軸方位N-8°-Eである。P1・P4間に深さ30cmの浅いP5が存在する。位置的に合わせて報告するが、本址に付属するものか確定できない。P1では直径15cmの柱痕が確認された。



写真59 F1号掘立柱建物址

3 土坑

E6グリッドでD1号土坑、E4グリッドでD2号土坑が検出されている。



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック(～3cm)を含む。
2層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(～2cm)を含む。
3層 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(～2cm)を多量に含む。
4層 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック(～2cm)を多量に含む。
5層 褐色土(10YR4/4) ロームブロック(～5cm)を多く含む。炭化植物を多量に含む。
6層 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック(～6cm)を多く含む。
7層 ぶい黄褐色ローム(10YR7/2) 黒褐色土ブロック(10YR3/2、～5cm)を含む。

第34図 D1号土坑

D1号土坑は長楕円形を呈する。規模は、長軸長208cm、短軸長125cm、深さ80cm(東半はテラス状で西半が深い)を測る。長軸方位はN-87°-Wである。H3号住居址を切る。

内面が黒色処理され、底部外面が手持ちヘラケズリ

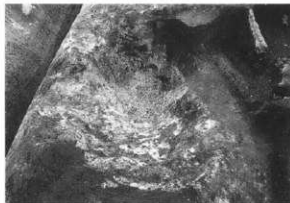
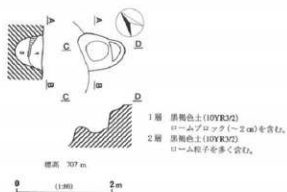


写真60 D1号土坑

で整形された土師器坯底部破片、回転糸切りで切り離し、その外周を回転ヘラ切りで整形した須恵器高台付坯底部破片が出土しており、8世紀後半期の土坑と考えられようか。



第35図 D 2号土坑

D 2号土坑はH 3号住居址を切り、攪乱により西半部が破壊されている。残存規模は長軸長90cm、短軸長80cm、深さ60cmで、長軸方位はN-34° - Eである。遺物はなく時期が確定できない。

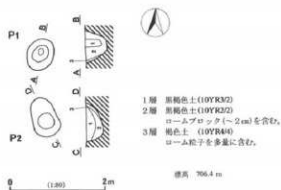


写真61 D 2号土坑

4 ビット

C 8グリッドでP 1・P 2ビット、F 5グリッドでP 3・P 4ビットが検出されている。P 2ビットはH 6号住居址を切り、P 3・P 4ビットはM 1号堀跡に

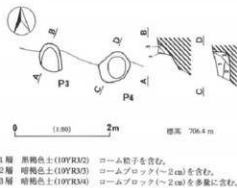
切られる。P 1・P 2間は150cm、P 3・P 4間は145cmである。P 1では直径15cmの柱痕が確認された。これらは、遺物の出土はなく時期を確定できない。



第36図 P 1・2ビット



写真62 P 1・2ビット



第37図 P 3・4ビット



写真63 P 3・4ビット

Ⅵ 中世の遺構と遺物

1 火葬墓

FD 1号火葬墓からFD 4号火葬墓の4基が確認された。検出位置はFD 1～3号火葬墓がE 6グリッドで、FD 4号火葬墓がF 6グリッドである。これらはM 1号堀跡埋没後の窪地を利用して設置されたものと考えられる。また、その窪地地形を要因として上部が自然削平されていた。FD 1～3号の3基が密接して北側の傾斜地に、FD 4号が単独で南側の傾斜地に位置し、両者の間隔は2mである。

FD 1号火葬墓 (第38図、写真64)

検出状態では不整形を呈し、長軸長69cm、短軸長59cm、深さ8cmの規模である。上部は削平され基本土層第I層を除去した段階で人骨片が検出されている。図中の網目は人骨片、灰の分布を示す。底面周辺は部分的に焼けて焼土面をなす。その上位に炭化物片、灰・人骨片の順番で乗る。

南西隅に古銭10枚(第39図)が副葬されていた。鑄造年代の古いものより、開元通寶(唐、621)1枚、天禧通寶(北宋、1017)1枚、天聖元寶(北宋、1023)1枚、景祐元寶(北宋、1034)1枚、皇宋通寶(北宋、1038)2枚、熙寧元寶(北宋、1068)1枚、元豊通寶(北宋、1078)1枚、元祐通寶(北宋、1086)2枚である。主体は北宋銭9枚である。

D 2号火葬墓 (第40図、写真67・68)

検出状態では南北に長い楕円形を呈し、長軸長107cm、短軸長80cm、深さ28cmの規模である。また、東南部に

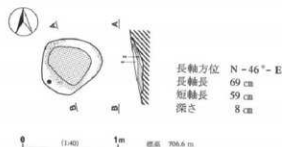
長さ20cm、幅20cmほどの煙道部状を呈する張り出し部が存在する。基本土層第I層を除去した段階では人骨片が僅かに検出される程度で、15cmほどの覆土が存在した。第40図上における網目は人骨片・灰の分布を示し、同図下は底面の焼土部分である。焼土の上には厚さ8cmほどの炭化物の堆積があり、その上位が灰・人骨片である。人骨は碎片が多く、量的に残りは悪い。副葬品は存在しなかった。

D 3号火葬墓 (第41図、写真69)

検出状態では不整形を呈し、長軸長78cm、短軸長68cm、深さ9cmの規模である。基本土層第I層を除去した段階で人骨片が僅かに検出され、覆土も存在するが人骨・灰の残りは悪い。図中の網目は人骨片、灰の分布であるが僅かで、その下の炭化物の残存は良好である。底面北・東の側面はよく焼けており、東側には長さ30cmほどの礎が存在した。副葬品はない。

D 4号火葬墓 (第42図、写真70)

検出状態では東西に長い楕円形呈し、長軸長94cm、短軸長54cm、深さ17cmの規模である。また、傾斜下方である北側に長さ10cm、幅26cmほどの煙道部状を呈する張り出し部が存在する。基本土層第I層を除去した段階で5cmほどの覆土が存在していた。底面南側面がよく焼けており、図中の網目範囲に一定量の人骨が残存した。なかには炭化した人骨が存在していた。副葬品はない。



- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロック・炭化物片を含む。
2層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を含む。

第38図 FD 1号火葬墓



写真64 FD 1号火葬墓



1 開元通寶
唐. 621
24.55/25.20 mm
3.53 g



2 天禧通寶
北宋. 1017
25.20/25.00 mm
3.60 g



3 天聖元寶
北宋. 1023
真書
24.75/24.85 mm
3.05 g



4 景祐元寶
北宋. 1034
真書
25.15/24.95 mm
3.57 g



5 皇宋通寶
北宋. 1038
真書
24.20/24.05 mm
2.97 g



6 皇宋通寶
北宋. 1038
篆書
25.30/25.10 mm
3.46 g



7 咸亨元寶
北宋. 1068
真書
23.05/22.95 mm
3.35 g



8 元豐通寶
北宋. 1078
行書
24.00/23.90 mm
3.97 g



9 元祐通寶
北宋. 1086
行書
24.50/24.80 mm
3.55 g



10 元祐通寶
北宋. 1086
行書
24.40/24.20 mm
3.15 g

第39圖 F D 1号火葬墓に副葬された古銭 (原寸)

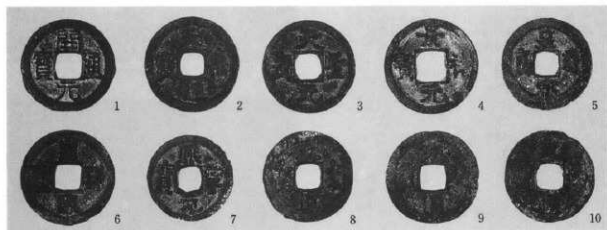


写真65 F D 1号火葬墓に副葬された古銭

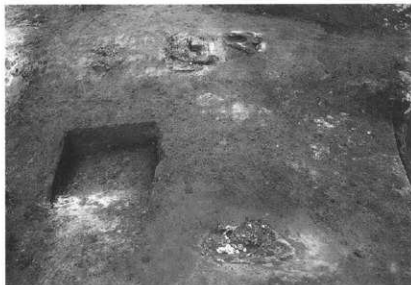


写真66 火葬墓群

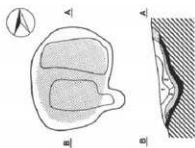


写真67 FD 2号火葬墓の人骨



長軸方位 N-4°-E
長軸長 107 cm
短軸長 80 cm
深さ 28 cm



写真68 FD 2号火葬墓の堀方と焼土

0 (1:40) 1m

標高 706.6 m

- 1層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を多く含む。
2層 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子を含む。
3層 褐色土 (10YR4/4)

第40図 FD 2号火葬墓



長軸方位 N-37°-W
長軸長 78 cm
短軸長 68 cm
深さ 9 cm



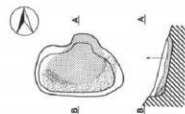
写真69 FD 3号火葬墓の人骨と炭化物

0 (1:40) 1m

標高 706.9 m

- 1層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を多く含む。

第41図 FD 3号火葬墓



長軸方位 N-84°-W
長軸長 94 cm
短軸長 54 cm
深さ 17 cm

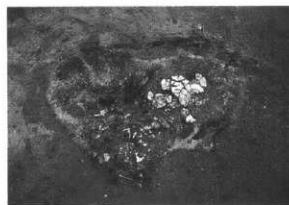


写真70 FD 4号火葬墓の人骨

0 (1:40) 1m

標高 706.4 m

- 1層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を多く含む。

第42図 FD 4号火葬墓

2 堀跡

調査区を横断するM1号堀跡がE・F行グリッドで検出されている。I層を除去した段階では(北側検出面II層、南側検出面III層)、幅5~6mの緩やかに窪む堀の範囲が確認された。後をもって落ち込む堀の淵幅は2.5~3mで、深さ3mほどである。底面は幅30cm前後と極めて狭くなる。調査区東端と西端では比高差

1m程の傾斜を有している。所謂薬研堀であるが、下半部の堆積は崩落した脆弱な火砕流堆積であり、上半部幅の変形を考慮しなくてはならない。また、覆土上部の火砕流堆積は崩落土層を示唆しようか。遺物は推定口径84mmのかわらけ片1点と推定底径64mmの青磁盤底部破片1点が覆土上層から検出された。

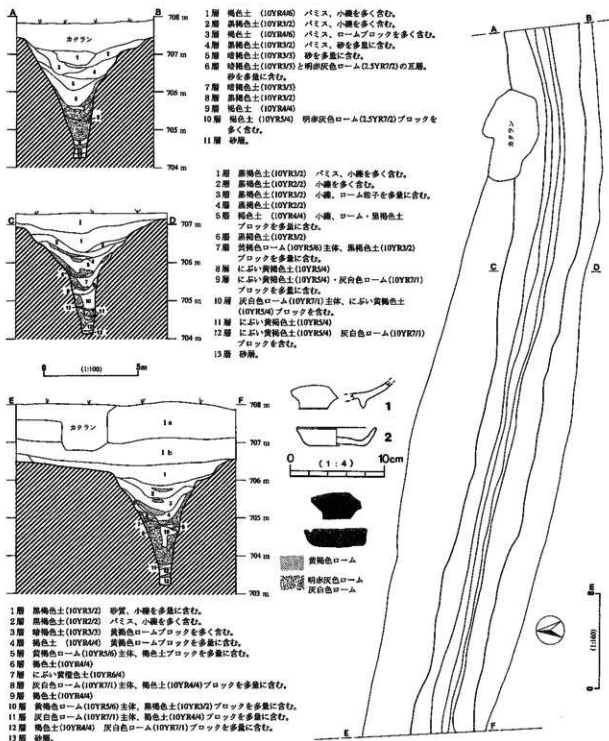




写真71 M1号掘跡

Ⅶ 調査のまとめ

冒頭で記述したように上ノ城遺跡の調査地点は江戸時代末期に築城された藤ヶ城の縄張り内に存在し、隣接する岩村田小学校には本丸の石垣が残されていることから、その時代の遺構・遺物の存在を確認することが一つの目標であった。しかし、その時代の遺物・遺構はほとんど確認されなかった。本調査地点には双信電気の工場が存在していたため、建物建設と整地により、遺構が存在していたとしても、その削平によって破壊された可能性が高い。ただ、本調査地点は外馬場であった可能性が高いことから、調査区西側に残る砂質のI層が、東北から南西方向に傾斜していた旧地形の整地層であった可能性は指摘できる。確認された中世の堀跡は自然の状態では当時、窪地地形であった可能性が高いことから整地層の存在は予想できる。但し、遺物からはI層の時期は確定できなかった。

さて、以上のように当初の予想とは反したが、第一に、古くは縄文時代の狩り場として利用されていたことが、2基の陥し穴の存在から明らかになった。浅間第一軽石流の堆積で形成された田切台地では、縄文時代の集落はほとんど確認されない。その一方で、古代の集落調査に伴い、台地上に縄文時代の陥し穴が展開している状況が把握されてきた。その時期決定など課題は多いが、本遺跡でもその配列の一端が垣間見られた。田切り地形は軽石流の氾濫に起因する極端な浸食作用の結果であり、縄文時代においては今は様変わりな丘陵地形が展開していたのであろう。そして、第2に、古墳・奈良時代の集落が確認され、第3に、中世において時期・性格は捉えきれないが、大井氏の町割りをも想定させるような堀跡や、火葬墓の確認から基域として利用されていることが判明したのである。

古墳時代の集落は全体像が不明であるH9号住居を除くと、6世紀に展開されたと考えられる5軒の竪穴住居から構成されていた。その規模は、初期に形成されたH10号住居が床面積17.9㎡と小さく、後のH2・3・6・7号住居の床面積は23.8～29.3㎡と拡大された。主柱穴4本とカマド右脇の貯蔵穴は各住居の基

本施設であり、柱穴に溝が連結する特徴がH3号住居址を典型に、H6・7号住居址に見られた。

北壁に構築されたカマドの特徴は、残りが良好なH3・6・10号住居址に同様な構築方法が示されていた。住居址の掘方は柱穴間中央を台状に掘り残し、壁際を深く掘り窪める方式であり、カマド部分も一旦は深く掘られている。そこに、床・燃焼部が形成され、その際に両袖の骨組みとなる割石が配列して埋め込まれる。また、古墳時代で使用されていた割石は、滑結凝灰岩ないし滑結安山岩と呼ばれる石材で、佐久市東部山地からもたらされたものと考えられる。その石組みは、H3号住居址の焚き口部と煙道入り口部が示すように天井石を有するものである。

奈良時代の竪穴住居址は、ほぼ同時期と捉えた5軒からなるが、各住居形態が異なり核村の余地であろうか。ただし、明らかに住居形態の異なるH5号とH11号住居址で、住居廃絶時に廃棄されたと考えられる須恵器大甕の接合関係が確認されていることは重視しなければならない。H1号住居址はカマドの位置が東側であり、他の住居とは様相を異にする。H5号住居址は東西の壁中央部に主柱穴を有する点で異なる。H4・8・11号住居址は主柱穴が存在しない点で同等であるが、H8号住居址は出入り口と想定される施設を有する点で異なる。そして、カマドの構築方法が各住居で個性的である。

構築材に利用されていた石が、割石から浅間第一軽石流の軽石や河床礫に変更することが奈良時代の特徴であるが、その構築材に土器が用いられる点も大きな特徴である。H4号住居址では、面取りされた軽石や扁平な河床礫で煙道入り口部が構築されていたが、底部を抜いた土師器長胴甕が煙道部の煙突として、その破片が補強材として利用されていた。H11号住居址も同様に面取りされた軽石や扁平な河床礫で煙道入り口部・両袖が構築されていたが、その補強材として須恵器大甕の破片を利用していた点は極めて特徴的な在り方であった。

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城址』
 第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
 第3集 『石附跡Ⅲ』
 第4集 『大ふけ遺跡』
 第5集 『立科F遺跡』
 第6集 『上曾根遺跡』
 第7集 『三貫畑遺跡』
 第8集 『澁のF遺跡』
 第9集 『国道141号線関係遺跡』
 第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
 第11集 『赤塚垣外遺跡』
 第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
 第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
 第14集 『栗毛坂遺跡』
 第15集 『野馬久保遺跡』
 第16集 『石並城跡』
 第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』（1月～3月）
 第18集 『西曾根遺跡』
 第19集 『上芝宮遺跡』
 第20集 『下聖壇遺跡Ⅲ』
 第21集 『金井城跡Ⅲ』
 第22集 『市内遺跡発掘調査報告1991』
 第23集 『海上中原・南下中原遺跡』
 第24集 『上聖壇遺跡』
 第25集 『上久保田向遺跡Ⅳ』
 第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
 第27集 『上久保田向遺跡Ⅲ』
 第28集 『曾根新城Ⅴ』
 第29集 『榎村遺跡B 山法師遺跡B』
 第30集 『市内遺跡発掘調査報告1992』
 第31集 『山法師遺跡A 榎村遺跡A』
 第32集 『菓ノ原』
 第33集 『聖原遺跡Ⅲ 下曾根遺跡Ⅰ 前藤部遺跡2』
 第34集 『西一本榎遺跡Ⅰ』
 第35集 『市内遺跡発掘調査報告1993』
 第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』
 第37集 『西一本榎遺跡Ⅱ 中西の久保遺跡Ⅰ』
 第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
 第39集 『中屋敷遺跡』
 第40集 『寺沼遺跡』
 第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ
 上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
 西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
 第42集 『青山』
 第43集 『篠原平遺跡・池端遺跡』
 第44集 『寺添遺跡』
 第45集 『市内遺跡発掘調査報告1994』
 第46集 『両り遺跡』
 第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』
 第48集 『池塚城跡』
 第49集 『根々井芝宮遺跡』
 第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』
 第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』
 第52集 『坪の内遺跡』
 第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
 第54集 『市内遺跡発掘調査報告1995』
 第55集 『香取前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
 第56集 『聖原遺跡Ⅳ』
 第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
 第58集 『下虫穴遺跡Ⅰ』
 第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
 第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
 第61集 『割地遺跡』
 第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
 第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
 第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
 第65集 『中宿遺跡』
 第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』
 第67集 『供養塚遺跡』
 第68集 『前藤部遺跡』
 第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
 第70集 『観音堂遺跡』
 第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
 第72集 『市遺跡ⅡⅢ』
 第73集 『西一本榎Ⅲ・Ⅳ』
 第74集 『五里田遺跡』
 第75集 『八風山遺跡群』
 第76集 『南近津遺跡』
 第77集 『香取前遺跡Ⅲ』
 第78集 『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』
 第79集 『四ッ塚遺跡Ⅰ』
 第80集 『四ッ塚遺跡Ⅱ』
 第81集 『薬師寺遺跡』
 第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』
 第83集 『下聖壇遺跡Ⅳ』
 第84集 『種名平遺跡』
 第85集 『柳堂遺跡』
 第86集 『市内遺跡発掘調査報告書1999』
 第87集 『宮添遺跡』
 第88集 『下曾根遺跡』
 第89集 『川原端遺跡』
 第90集 『梨の木遺跡』
 第91集 『西一本榎・中長塚・松の木遺跡』
 第92集 『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』
 第93集 『入高山遺跡』
 第94集 『聖石遺跡』
 第95集 『市内遺跡発掘調査報告書2000』
 第96集 『上木戸遺跡』
 第97集 『久福添遺跡』
 第98集 『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』
 第99集 『中道遺跡Ⅱ』
 第100集 『野沢館跡Ⅲ』
 第101集 『深堀遺跡Ⅳ』
 第102集 『円正坊遺跡Ⅳ』
 第103集 『聖原 第1分冊』
 第104集 『聖石遺跡Ⅱ』
 第105集 『曾根城遺跡Ⅲ』
 第106集 『榎村遺跡Ⅱ』
 第107集 『聖原 第2分冊』
 第108集 『市内遺跡発掘調査報告書2001』
 第109集 『一本榎遺跡群 西一本榎遺跡Ⅲ』
 第110集 『佐久駅周辺土地区画整理事業』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第111集

上の城遺跡群 上ノ城遺跡

長野県佐久市大字岩村田上ノ城遺跡発掘調査報告書

2003年3月31日

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 中信社

